

# 方言と共通語

アキ 図書館で、こんな本を見つけたよ。おもしろそうじゃない？

ハル 本当だ。『ももたろう桃太郎』の話が、いろいろな地域の言葉で書かれているんだね。

オジーサンワ ヤマエ シバカリニ イッタ。  
 オバーサンワ カワエ 洗濯にセンダクニ イツタドサ。  
はこだて（北海道函館市）

ジサマワ ヤマサヨ 薪をタギモノ トリサ  
 バサマワ 山へカワサ 洗濯にシエンダグ 行ったぞうだよイツタツケドヤー。  
ひがしたがわ みかわ（山形県東田川郡三川町）

オジーサンワ 毎日ミヤーニチ ヤミヤー シバカリニ  
行かれたイカシタ。  
川へカワヤー 洗濯にセンダクニ 行かれたぞうだよイカシタゲナ。  
なごや（愛知県名古屋市）

オジーサンワ ヤマエ シバラ カリニ  
 オバーサンワ カワエ 洗濯にセンダクニ 行かれたんだよユカハツタンエ。  
なごや（京都府京都市）

オジーサンワ ヤマエ シバカリニ  
 オバーサンワ カワエ センタクニ  
行ったんだぞうだよイツタンジヤゲナ。  
はしま（広島県広島市）

タンメーヤ ヤマンカイ タムン アガネーイガ  
おじいさんは 山へ 薪を とりに  
おばあさんは 川へ 着物を  
洗いにアライガ 行きましたイチャビタン。  
なは（沖縄県那覇市）

この資料を見て、気づいたことや感じたことを話し合ってみましょう。  
 P 274へ



『方言』  
 さとうりょういち かんしゅう  
 佐藤 亮一 監修

漢字の練習7

① 次の——線部の平仮名の言葉は漢字で書こう。

- (1) 柳やなぎの木のえだが風かぜにそよぐ。
- (2) 軽率けいそつなこうどうを戒いましめる。
- (3) いんしょうに残のこった文章ぶんしょうを抄録しょうろくする。
- (4) 患者かんじやをびょういんに運はこぶ。
- (5) ていあんを撤回てつかいする。
- (6) 哺乳類ほにゅうるいのしんかについて調しらべる。
- (7) 国王こくおうへの謁見えつけんをゆるされる。
- (8) しょうらいは獣医じゅういになりたい。
- (9) 空そらはかいせいで澄すみわたっている。
- (10) 昨日けふのしあいせきは惜敗せきばいだった。

10

5

② 次の言葉は、『付表』の語と呼ばれる、「常用漢

字表」の「付表」にあげられている語である。それぞ  
れの語を用いて短い文を作ろう。

- (1) 小豆あずき
- (2) 海原うなばら
- (3) 尻尾しっぽ
- (4) 竹刀しな
- (5) 芝生しばい
- (6) 雪崩なだれ
- (7) 叔父おじ

この教材で学ぶ漢字

柳リュウ 川柳やなぎ  
柳の芽

戒カイ 警戒いましめる

抄シヨウ 抄出

患カン 患者

撤テツ 撤去

哺ホ 哺乳瓶

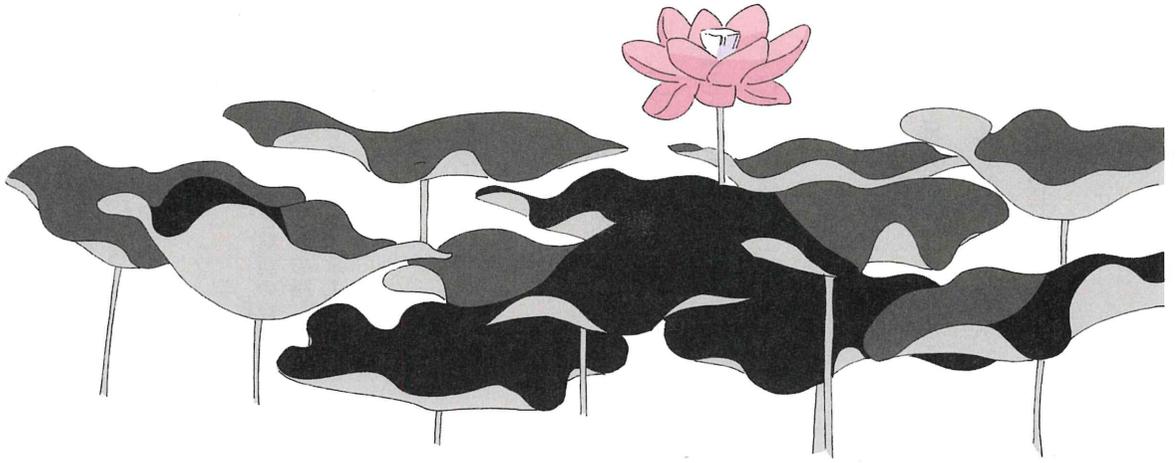
謁エツ 拜謁

獸ジュウ 獸類

澄すむ 耳を澄ます

惜セキ 惜別  
惜しくも

「付表」の語	小豆 (あずき)	竹刀 (しな)	……叔父 (おじ)
	海原 (うなばら)	芝生 (しばい)	
	尻尾 (しっぽ)	雪崩 (なだれ)	



# 言葉と文法

解説編

## 言葉（解説）

1 日本語の音声 ..... 266

2 日本語の文字 ..... 270

3 方言と共通語 ..... 274

## 文法（解説）

1 言葉の単位 ..... 278

2 文の成分 ..... 281

3 単語のいろいろ ..... 286

# 日本語の音声

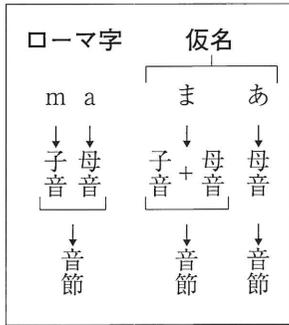
日本語と英語の違いがおもしろいな。  
まずは日本語の話し方について、声に出して確かめてみよう。



## 🍀 やってみよう

- (1) 「マ・ミ・ム・メ・モ」と声に出してみてください。口や唇の動きは、どうなっていますか。
- (2) 「マー・ミー・ムー・メー・モー」のように、長く伸ばして発音してみてください。長く伸ばした音は、どのように聞こえますか。

どうですか。「マ・ミ・ム・メ・モ」と発音するとき、この五つの音のそれぞれの最初のところ、唇は閉じられています。



15

10

5

「マ」を例にすると、唇が閉じていることで出た音と、「ア」のように聞こえる音の組み合わせで、「マ」の音ができていることがわかります。最初の部分の音を子音しいんといい、あとの部分の音を母音ぼいんといいます。

ローマ字では「ma」と書き、「m」が子音で、「a」が母音です。

## 五十音図



下のような表は、仮名かなの一覧表であると同時に、日本語の音を規則的に並べた一覧表で、五十音図と言われています。

五十音図の同じ段に並んで

ア行	カ行	サ行	タ行	ナ行	ハ行	マ行	ヤ行	ラ行	ワ行	ア段
ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ	イ段
イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	イ	リ	イ	ウ段
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ	ル	ウ	エ段
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	エ	オ段
オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ヨ	ロ	オ	オ段

目標と振り返り

□ 日本語の音の特徴を理解する。

いる音は、同じ母音をもっており、同じ行の音は、子音が同じか似た音です。発音したり、ローマ字で書いたりして、確かめてみましょう。

五十音図に示されている音を清音といいます。日本語の音には、この他に、ガ・ザ・ダ・バ行の濁音だくおん、パ行の半濁音、「キャ・キュ・キョ」などの拗音ようおんがあります。

さらに、外来語には、「シエ」「ジエ」「チエ」「ツア・ツエ・ツォ」「テイ」「デイ」「デュ」「ファ・フィ・フェ・フォ」といった、さまざまな音が使われています。

五十音図に表される音は母音だけか、子音と母音の組み合わせでできています。この音のまとまりを拍はくといいます。私たちが日本語の音を聞いたり発音したりするときも、子音だけをとり出して聞いたり話したりすることは、まずありません。拍は日本語の音の基本的な単位です。俳句の音を「五・七・五」と数えるときや回文を作るときに拍を単位としていきます。促音そくおん（「ッ」）、撥音はつおん（「ン」）、長音（「ー」）は、特殊な音で、子音と母音の組み合わせになっていませんが、一つの拍と数えます。

15

10

5

### 日本語と英語の音節

日本語の俳句や短歌のリズムは拍ですが、英語でも詩を作るときの単位になる音節があります。例えば、「cat」「dog」は、それぞれ一つの音節です。英語には子音で終わる音節がたくさんありますが、日本語にはほとんどありません。

他に、英語では、「strike」の「str」や、「next」の「xt」のように、一つの音節の中で、子音が二つ以上続くことがよくありますが、日本語では、拍に子音が二つ続くことはないのが原則です。例えば、日本語の「ストライク」は、子音一つ一つのあとに母音を入れて、「sutoraiiku」のように言います。

拍や音節は、日本語でも英語でも、聞いたり発音したりするときの基本的な単位です。英語の歌では、原則として、一つの音節に一つの音符おんぷがあてられ、日本語の歌では拍の単位で音符があてられています。歌いながら手をたたいてみるとわかりやすいですよ。

Twinkle, Twinkle, Little Star  
(きらきら星)

フランス民謡



Twin - kle, twin - kle, lit - tle star, How I won - der what you are!

# アクセント

## ✿ やってみよう

次の文を、線部に気をつけて発音してみましょう。

- (1) 箸<sup>はし</sup>を持つ。
- (2) 橋<sup>わた</sup>を渡る。

二つの「はし」という言葉は、音は同じですが、発音してみると違いがあります。まず、「ハ」を高く、「シ」を低く発音してみてください。どちらの言葉に聞こえますか。次に「ハ」を低く、「シ」を高く発音してみましょう。今度はどうでしょうか。方言によって違いがありますが、共通語では、「箸」は「ハ」を高く、「橋」は「シ」を高く発音します。



10

このような、言葉によって、どこを高く、どこを低く発音するかということアクセントといえます。アクセントの違いで、「箸」と「橋」のような同じ音をもつ言葉の意味を区別できることがあります。

アクセントには、その言葉だけを発音したのでは、区別がつかない場合があります。次の「ハシ」はどう発音するか、考えてみましょう。

## ✿ 考えてみよう

次の文を、線部に気をつけて発音してみましょう。

- (1) 橋<sup>はし</sup>を渡る。
- (2) 端<sup>はし</sup>を歩く。



「ハ」と「シ」の発音は同じだけど、「を」まで発音すると、違いがわかるよ。



## イントネーションと伝え方の工夫 くふう

朝なかなか起きられずにいて、家族に「起きた？」と聞かれることはありませんか。その返事に「起きた。」と答えることもあるでしょう。この二つの「起きた」は、同じ声の調子でしょうか。また、「起きた。」の返事の言い方にはいろいろあることに気がついたでしょうか。文末や全体の言い方の調子が変わることで、伝わる気持ちが変わりますね。言葉のまとまり全体の抑揚（声の上がり下がり）が違っていているのです。この全体の抑揚のことをイントネーションといいます。イントネーションは、問いかげや断定など、話し手の気持ちに合わせて変化します。

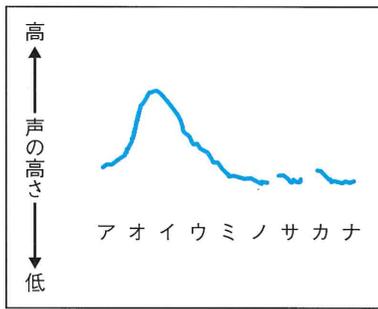
次はどうでしょう。「青い海の魚」は、文字で書いてあるだけでは、青いのが「海」か「魚」か、はつきりしません。しかし、文を読む調子を変えることで、どちらが青いのかをはつきりさせることができます。

これもイントネーションのはたらきの一つです。図の青い線のような声の高低で発音すると青いのは海となり、赤い線のように発音すると青いのは魚の意味になります。発音して

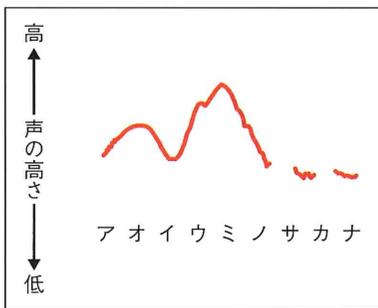
比べてみましょう。

「昨日、田中たなかさんに会った。」という文で、「田中さんに会ったのは、昨日だ。」と言いたいときと、「昨日会ったのは、田中さんだ。」と言いたいときでは、声の調子はどう違いますか。声の上がり下がりだけでなく、速度や間まのおき方などでも、伝わる気持ちが違ってきます。実際に発音して比べてみましょう。

イントネーションなどの声の調子を上手に使うと、気持ちや文の意味を的確に伝えることができます。音読や朗読の時に気をつけたり、日常の会話でも意識したりして、声の調子をうまく使ってみましょう。



青いのが「海」の場合の声の高低のイメージ



青いのが「魚」の場合の声の高低のイメージ

## 日本語の文字

平仮名や片仮名は、漢字がもとになってできた文字だよ。仮名の成立や歴史について見ていこう。



日本語は、一般に漢字仮名交じり文で書き表されます。漢字と仮名を適度に交ぜることによって、読み手に意味を伝えやすくすることができます。

仮名は、意味を表さず音だけを表します。このような文字を表音文字といいます。一方、意味を表す文字を表意文字といいます。中でも、漢字は一字で一つの語としてのはたらきをもつため、表語文字ということもあります。

表語文字 (表意文字)	表音文字
根 (植物の根) 音 (楽器などが出す音) 寝 (寝ること) 寝 (物の値打ち)	ね

目標と振り返り

□日本語を書き表す文字の特徴を理解する。

日本語の書き表し方には、中国から伝わってきた漢字や、漢字をもとに日本で作られた仮名、欧米から入ってきたローマ字などが用いられています。

## 漢字の利用

日本語には、もともと文字はありませんでした。そこで、中国から伝えられた漢字を利用して、日本語を書き表す工夫をしました。例えば、季節の「はる」を表すのに、漢字の音を用いて「波流」と書いたり、木々に咲く「はな」を「波奈」と書いたりしました。漢字の読みを借りて、日本語の音を表す文字として利用したのです。『万葉集』に多く用いられていることから、このような文字を万葉仮名といいます。

また、漢字がもともともっている意味を使って、日本語の「はる」を漢字の「春」、「はな」を「花」で書き表し、日本語の意味に合わせて「ハル」「ハナ」と読むこともしました。



このような工夫によって、「春佐久波奈（春咲く花）」「花佐久波流（花咲く春）」などと日本語を書き表すことができようになるようになったのです。平安時代になると、さらに日本語の音の書き表し方の工夫が進みます。

## 片仮名の成立



平安時代の日本は、中国から多くの文化を学んでいました。そのためには、中国語で書かれた文章（漢文）を読み解くことがどうしても必要でした。そこで、例えば、「大器晩成」を「大器ハ晩成ス。」のように、外国語である漢文を日本語の言葉のきまりに従って、直接、日本語に翻訳しながら読むことができるような工夫をしました。それが、漢文の訓読です。

↓ P 132 へ

こうした漢文訓読の学習を進めていくとき、「大器晩成」と書かれた書物の「晩成」のところに「須（す）」といった文字を書き添えたり、「大器」に「多伊幾（たいき）」という読み方を書いたりすることはとても大変です。このような不便を解消しようと、「伊↓イ」「仁↓ニ」のように、漢字の書き始めや書き終わりの一部分を切り取るようにして、もとの

字のかわりに音を書き表す方法を工夫しました。こうして、片仮名が生まれたのです。



趣己則舎之（「舎」という字に「ユルス」という訓が示されている。）

片仮名で読み方を示した平安時代の書（『周易』の一部）

## 平仮名の成立



平仮名も、漢字から生まれた文字です。漢字を利用して日本語を書き表す工夫が進むにつれて、漢字の書体の使い方も工夫されるようになりました。

万葉仮名は、当初、現在の私たちが字を書くときに一般に利用する楷書という書体で書かれていました。しかし、点画が多く、日本語の文章をその音どおりにすらすらと書き表すには不便があったため、行書や、草書をもとに平仮名が生まれました。次のページで、もともとなった漢字や、いろいろな書体を見比べてみましょう。

安あ	加か	左さ	太た	奈な	波は	末ま	也や	良ら	和わ	无ん
以い	幾き	之し	知ち	仁に	比ひ	美み	利り	(為る)		
宇う	久く	寸す	川 <small>(刑)</small> つ	奴ぬ	不ふ	武む	由ゆ	留る		
衣え	計け	世せ	天て	祢 <small>(部)</small> ね	下 <small>(部)</small> へ	女め	礼れ	(恵る)		
於お	己こ	曾そ	止と	乃の	保ほ	毛も	与よ	呂ろ	遠を	

和

楷書

和

行書

和

草書

## ローマ字の利用 ✿✿

日本人がローマ字に初めて出会ったのは、十六世紀末から十七世紀にかけてといわれています。スペインやポルトガルなどの宣教師によって、ヨーロッパの品々とともに、いろいろな言葉が日本に入ってきました。同時に、外国の人々が日本語を書き表すのに使っていたローマ字が、日本に入ってきました。しかし、日本人が日本語を書き表すために、ローマ字を積極的に利用することはありませんでした。

その後、明治になると、ローマ字で日本語を書き表すことが広まりました。当時、日本語研究で優れた業績を残していたアメリカ人宣教師の名前にちなんで、「ヘボン式」と名づけられた書き表し方が広く行われました。ほかにも、有力な書き表し方があり、昭和になってその方法が整理されました。ローマ字は、現在、公共の場での地名表示などに、よく用いられています。

文章にやわらかい感じを出すために、漢字で書ける語を平仮名で書くことがあるよね。さまざまなの文字の特徴を捉えて、使い分けていこう。



(尔)	和	良	也	万	八	奈	多	散	加	阿
(ン)	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
	(井)	利		三	比	仁	千	之	幾	伊
	(キ)	リ		ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
		流	由	牟	不	奴	川 <sup>(州)</sup>	須	久	宇
		ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
	(恵)	礼		女	阝 <sup>(部)</sup>	祢	天	世	介	江
	(子)	レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
	乎	呂	与	毛	保	乃	止	曾	己	於
	ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

もともとなつた漢字を知ると、平仮名や片仮名への興味がわきますね！



### 片仮名の成立と字形

『言葉の小窓2』(172ページ)で、リンが困っていた「ソンス」の片仮名四文字は、特に書き分けが難しいようです。少ない筆数で、簡単に書くことができるぶん、字形に注意を払う必要があります。

ここで、片仮名の成立を見てみましょう。「ソ」は、「曾」の最初の二画から成り立っています。また、「シ」は、「尔」の最初の二画、もしくは、撥音を象徴した記号「レ」に由来していると言われています。また、「シ」は「之」の全画、「ツ」は「川」の全画が用いられています。

以上のことから、「ソ」と「ツ」のはらいは右上から左下へ、「シ」と「シ」のはらいは左下から右上へ書くと、見分けやすくなるはずですよ。

ところで、最も書き方の勘<sup>かん</sup>が多い片仮名はなんだと思いますか。それは「ヲ」です。皆さんも「フ」と書いてから、「一」をつけたす書き方をしていませんか。

「ヲ」は、「乎」の最初の三画から成り立っています。「乎」の一画めと二画めが、「ヲ」の二本の横棒になっているのですが、二画の一般的な書き方は、「二」を書いてから、最後にはらいを書く書き方とされています。

片仮名の成立を知り、うまく書き分けられるようにしましょう。

# 方言と共通語

地域によって、いろいろな言い方があるんだね。中には、似ている言い方や全く違う言い方もあることに気づいたかな？



## 方言はどうしてできるか

言葉は人と人の間をつなぐものです。

想像してみてください。別々の場所に暮らす人々がいたとして、その人々が話をする機会がずっとなかったとしたら、二つの場所の言葉は、違うものになっていきます。このことがよくわかる例が、下の「梅雨」の地図です。

本州の東側では「×」の「ニューバイ」が多く使われ、西側では「●」の「ツユ」が多く使われています。どうしてこのようなことが起こったのでしょうか。

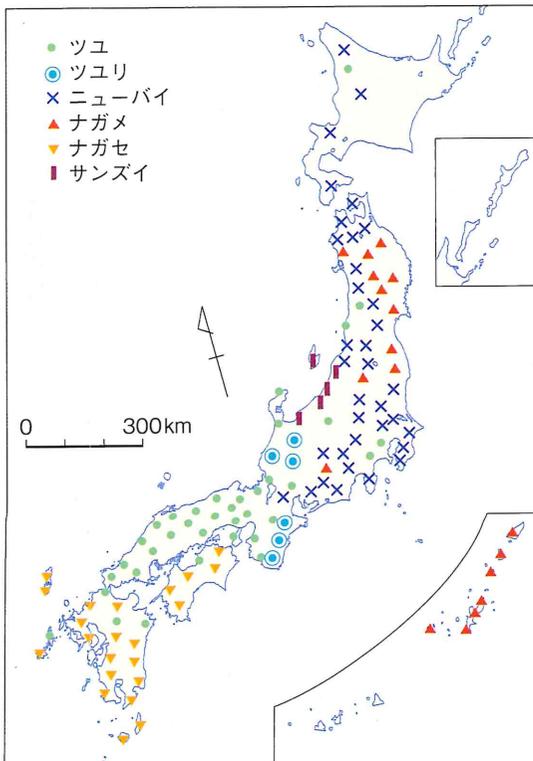
本州の東西の境目のあたりには、高い山脈や大きな川があ

15

10

5

図1 「梅雨」を意味する言葉の分布



目標と振り返り

□ 方言と共通語の特徴について知る。

り、交通手段のあまり発達していない時代には、人々の行き来を妨げていました。そのために、東西で、使う言葉が異なるようになったと考えられます。

このように、地域によって違いがみられる言葉を方言とい  
います。日本のどこでも、その土地の方言があります。

## 方言のいろいろ

このような言葉の違いは、単語だけではなく、発音などに  
も現れます。

例えば、東京の人が「箸」の意味で「ハシ」と言うと、大  
阪の人には「橋」に聞こえてしまうのは、アクセントが違う  
ため、これは発音の問題ということになります。  P 268 へ

## 共通語の成り立ち

共通語は、昔の江戸周辺の地域でもともと使われていた方  
言に、近畿地方の方言などの要素が加わってできた言葉だと  
いわれています。「梅雨」のことを、関東地方で使われてい  
る「ニューバイ」ではなく、「ツユ」と言うのは、そのよい  
例です。

他にも、関東地方のもともとの言葉では、「行こう」と誘  
うときに「イクベー」と言いますが、共通語では、「イコー」  
と言います。これも近畿地方の方言の要素です。

15

10

5

また、東京の言葉にも方言があります。「片づける」こと  
を「カタス」と言ったり、新宿のことを「シンジク」と発  
音したりするのも、東京の方言です。

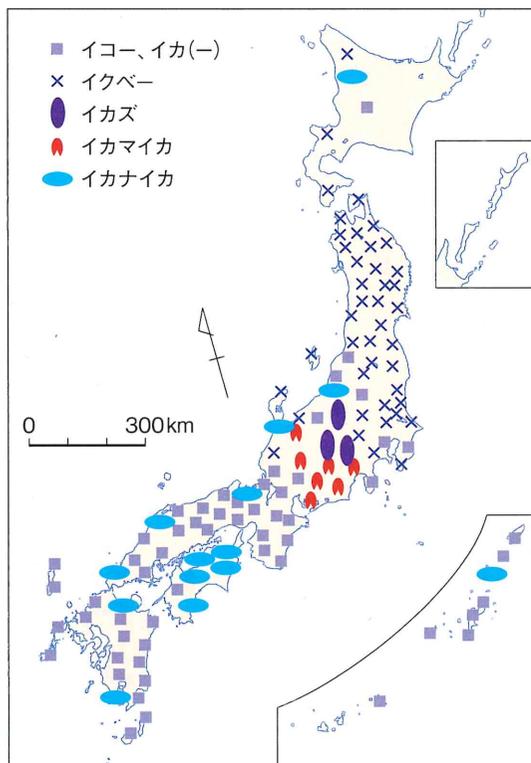


図2 「行こう」を意味する言葉の分布

東京にも方言があるなんて、知らなかつ  
たなあ。

他にはどんな方言があるんだろう？



## 方言と歴史

方言は長い時間をかけてできた言葉です。奈良時代に成立した『万葉集』にも、方言で書かれた歌があります。「とんぼ」の方言を例に、方言と歴史の深い関係を見ていきましょう。

下の地図を見てください。東北地方の一部に「アケズ」があり、奄美や沖縄に「フェーダ」や「アケージュ」があります。これは、昆虫のトンボの古い言い方である「アキヅ」からきていると考えることができます。「フェーダ」は、奄美では「開ける」が「フェーユン」となることから、やはり「アキヅ」がもとになっていると考えられます。

日本の中央から遠く離れたところに、別々に「アキヅ」の仲間の言い方が残っていますね。もともとは、もっと広い地域にこの言い方が広がっていましたが、あとから中央で「トンボ」などの新しい言い方ができて、全国に広がっていったために、「アキヅ」の仲間の言い方が、南北に孤立するようになったと考えられます。北では「アケズ」、南では「フェーダ」と、全く違う言葉に聞こえますが、もともとは同じ言葉からできたということなのです。

15

10

5

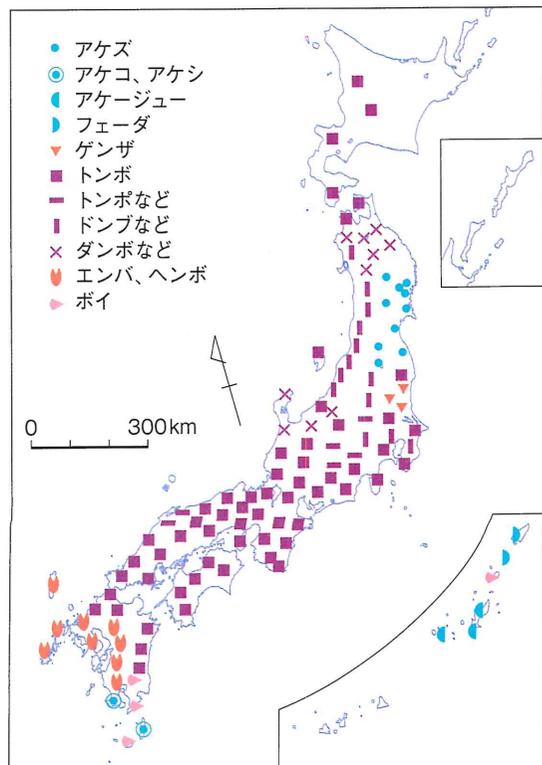


図3 「とんぼ」を意味する言葉の分布

## 新しい方言

方言には、古い言葉が残っていることが多いのですが、中には、近年、新しく生まれた言葉もあります。

大学に入ったばかりの学生のことを、関東地方では「一年生」と言い、近畿地方では「一回生」と言います。今のよう  
な大学ができたのは明治時代ですから、このような言葉の違

いは、それほど古いものではないといえます。

また、「違っていた」の意味で、関東地方の人が、「チガ  
 カッタ」と言うのも、新しくできた言葉です。近畿地方では  
 あまり使われません。皆さんがよく使う「模造紙」も、「大  
 判紙」<sup>ばんし</sup>「大洋紙」<sup>たいようし</sup>「B紙」<sup>ビーし</sup>「広用紙」<sup>ひろようし</sup>など、日本各地にいろい  
 ろな呼び方があります。

## 社会方言



言葉の違いを生むのは、地理的な要因だけではありません。  
 ある航空会社では、「飛行機酔い」<sup>ひこうきよい</sup>のことを「空酔」<sup>そらよい</sup>と言  
 い、別の航空会社では、「空酔」と言うことがあります。こ  
 れは、違う会社の人どうしでは、一緒に仕事をすることがな  
 いために生じるものです。

また、若い人が使っている言葉を、お年寄りが理解できな  
 いということも、よくあります。

このように、現代では、地理的な要因だけでなく、所属す  
 る団体や世代などの社会的な要因によって、言葉が違いうこと  
 がよくあります。これを**社会方言**といいます。

## 方言と共通語の使い分け



ところで、私たちは、方言だけで生活しているでしょうか。  
 現代の人は、方言と共通語を、相手や場面によって使い分  
 けているのが一般的です。例えば、家族と話すときは方言で、  
 よそから来た人と話すときは共通語で、というぐあいです。  
 このような使い分けをするのが、現代の方言の大きな特徴  
 といえます。

## 考えてみよう

- (1) 自分たちが使っている言葉で、共通語と違う言葉には、  
 どのようなものがあるでしょうか。また、発音や言葉の  
 特徴（接続詞や文末表現など）についても考えましょう。
- (2) 方言と共通語の使い分けがどのように行われているか、  
 調べてみましょう。

\*図1・3は『日本語語地図』（一九六六—一九七四年 国立国  
 語研究所）をもとに作成。図2は『方言文法全国地図』（一九  
 八九—二〇〇六年 国立国語研究所）をもとに作成。

# 言葉の単位

私たちは言葉を使って、表現・理解し、伝え合っているよね。私たちが使う言葉には、どのようなまじりがあるのかな。



## 文法とは、文法を学ぶとは

言葉のきまりのことを文法といいます。私たちは、ふだんあまり文法を意識せずに、話したり聞いたり、書いたり読んだりしていますが、文法を学ぶことで、より適切に言葉を使うことができます。

## 文章

小説や論説、詩の全体、または一通の手紙全体などのように、まとまった内容を書き表したものを文章といいます。話し言葉の場合、スピーチや講演などの全体が文章にあたり、

15

10

5

談話ということもあります。

## 段落

文章の中で、まとまった内容を表しているひとまとまりを段落といいます。文字で書く場合、段落の変わり目では行を改め、最初の一字分をあけて書きます。

目標と目振り  
振り返り

□ 文章・段落・文・文節・単語という言葉の単位について理解する。

### 文

### 文章

☐ コミュニケーションには、言葉に直接関わる要素と、言葉に直接関わらない要素があります。例えば、「おはよう」という挨拶は言葉に直接関わる要素ですが、挨拶に伴う身振りや手振り、表情などは、言葉に直接関わらない要素です。

☐ 実際のコミュニケーションには、相手と直接対面する「対面コミュニケーション」と、電話や電子メールなどを介した、相手の姿が見えない「非対面コミュニケーション」があります。

### 段落

### 段落

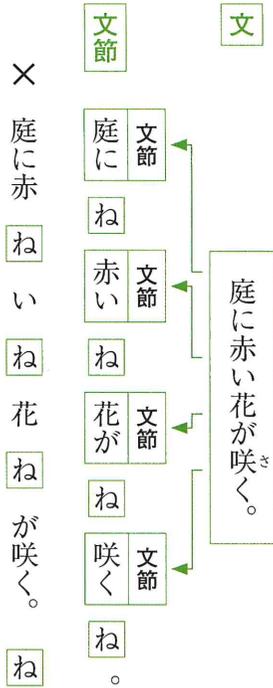
## 文

文章や段落の中で、一つのまとまった内容を表すひとまとまりを文といいます。文字で書く場合、文の終わりには、たいていの場合、「。」(句点)をつけます。また、話す場合、文と文との切れ目に間まがおかれます。

## 文節

文を、実際に使われる表現として不自然にならないように、細かくくぎったひとまとまりを文節といいます。文節は、単独または複数でまとまって、文を組み立てる文の成分としてはたります。

次の文を、文節にくぎってみましょう。



文節に分けるとときには、多くの場合、文節の終わりに「ね」や「よ」を添そえることができます。

## 単語

文節をさらに細かく分けて、意味をもつ最小の部分にくぎった言葉を単語、または語といいます。単語は、名詞・動詞・形容詞など、いくつかの種類に分けられます。

次の文節を、単語にくぎってみましょう。



× ア／キ ま／い／に／ち ほ／ん よ／む

単語は、意味をもった最小の単位です。例えば「庭」を「に」と「わ」に分けてしまうと、意味がわからなくなりま

15

10

5

▼次の例のように、もともと単独で使える二つ以上の単語が結びついて、一つの単語になったものを複合語という。

・本	+	箱	＝	本箱
・書く	+	直す	＝	書き直す
・運動	+	する	＝	運動する
・息	+	苦しい	＝	息苦しい

✿ やってみよう

(1) 次の文章に句点(。)を加え、いくつかの文に分けてみましょう。

その日は朝から日差しが強かった暑さに耐えかねた私は、木陰を見つけて一休みすることにしたしばらく休んでいると、汗が引いていくのが感じられる

(2) 次の①～③の文を文節にくぎったあと、それぞれの文節を単語に分けてみましょう。

- ① 屋根の上に猫がいる。
- ② 朝日が山肌を赤く照らした。
- ③ 学校の図書館で図鑑を借りる。

15

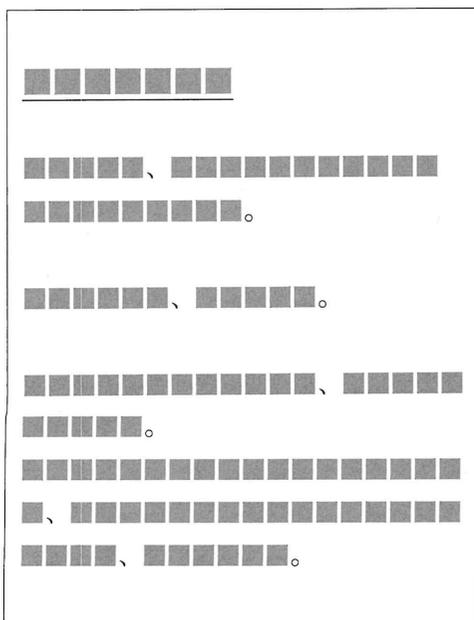
10

5

インターネットの文章

一般に文章を書く際、いくつかの文を連ねて段落を作り、段落の変わり目では行を改め、最初の一字分をあげて書きます。一方、インターネットの文章では、一文ごとに改行し、最初の一字分をあげずに書くことがあります。また、内容のまとまりごとにブロックを作り、一行あけてその変わり目を示すこともあります。このように、一般の文章とインターネットの文章では、書き示し方に異なりが見られます。

[インターネットの文章の例]



文法2

P102の解説

# 文の成分

長い文を書いていると、主語と述語が対応しなくなってしまうことがよくあるよね。文の中の言葉と言葉の関係を理解することが大切だよ。



## 文の成分

文の中で文を組み立てる部分を文の成分といいます。

### やってみよう

次の(1)～(4)の——線部と＝線部の関係と同じ関係のものを、A～Dから選びましょう。

- (1) 雪が積もった。
- (2) ああ、困った。
- (3) 本を読む。
- (4) 苦しくても、がんばろう。

15

10

5

目標と振り返り

□ 主語・述語・修飾語など、文の成分の役割について理解する。

- A 残ったくじを引いてみた。
- B かわいい子猫が寝ている。
- C なんとまあ、美しい。
- D 風が強いので、走りにくい。

(1)の「雪が」も、Bの「かわいい子猫が」も、どちらも文の中で「何が」にあたる文の成分です。このような文の成分を主語といいます。文の成分には、主語のほか、述語や修飾語、接続語、独立語があります。

Bの「かわいい子猫が」は「かわいい」と「子猫が」の二つの文節がひとまとまりになって、文の成分を作っています。このように、複数の文節がひとまとまりになったものを連文節といいます。文の成分が連文節の場合、主部や述部などと、「部」を使って呼ぶこともあります。

## 主語・述語

### やってみよう

次の言葉に対して、「何（誰）が」にあたる文の成分を補って文を作りましょう。

- (1) 咲さいている (2) 冷ひやたい  
 (3) 今日の当番です (4) ある

例えば次のような文ができます。

- (1) ばらばらが 咲さいている。  
 (2) 山やまから吹ふく風かぜが 冷ひやたい。  
 (3) 私わたしが 今日けふの当番とうばんです。  
 (4) 大きな学校がっこうが ある。

文の中で「何（誰）が」にあたる文の成分を主語といい、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」にあたる文の成分を述語といいます。また、主語と述語



との関係を主・述の関係といいます。

主語は「……が」でないこともあります。主語が見つけない場合は、最初に述語を見つけて、その述語に対して、「そうするのは何（誰）か」「そうなのは何（誰）か」に注目して探してみよう。

- 花はな子こだけ 走はった。  
 ↓「走はった」のは「花はな子こ」 || 「花はな子こだけ」が主語  
 ○昨日けふは 部ぶ屋やも きれいだたった。  
 ↓「きれいだたった」のは「部ぶ屋や」 || 「部ぶ屋やも」が主語

### 修飾語

### やってみよう

次の文に「どんな」「何を」「どのように」にあたる文の成分を加えて、文の内容を詳しくしましょう。

- (1) 犬いぬが 食くべる。  
 (2) 母ははは 台所だいしよで 刻くんでいる。  
 例えば次のような文ができます。  
 (3) 大おおきい犬いぬが 餌えさを おいしおいしそうそうに 食くべる。

(4) 私の母は 台所で ねぎを すばやく たくさん 刻  
 んでいる。

他の文の成分の意味や内容を詳しくする文の成分を修飾語  
 といいます。また、修飾する文の成分と修飾される文の成分  
 との関係は修飾・被修飾の関係といえます。

修飾語は何を修飾するのかわによって、大きく二種類に分け  
 られます。

一つは、「どんな」ことやものであるのかを詳しく述べる  
 もので、体言（事物や人などを表す言葉▼P287へ）を含む文  
 の成分を修飾することから、連体修飾語といえます。(3)の  
 「大きい」や(4)の「私の」は連体修飾語です。

もう一つは、「何を」するのか、「どのように」するのかな  
 どを詳しくするもので、用言（動作・作用・存在・性質・状  
 態などを表す言葉▼P288へ）を含む文の成分を修飾すること  
 から、連用修飾語といえます。(3)の「餌を」「おいしそうに」  
 や(4)の「ねぎを」「すばやく」「たくさん」は連用修飾語です。

連用修飾語は次のように分類することもできます。

動作や状態が成り立つために必要な、事物や人を詳しくする

もの

・ 僕は 兄に 本を 借りた。

事柄の成り立つ、時・所・原因・目的などを詳しくするもの

・ 二日前に 雨が 降りました。

事柄の状態や程度を詳しくするもの

・ 煙が もくもくと 立ち上る。

気持ちを詳しくするもの

・ 雨は たぶん 降らないでしょう。

### 接続語

(1) 暗かった。だから、見えなかった。(理由)

(2) 雨はやんだ。しかし、運動会は中止になった。(逆接)

(3) 暗かったので、見えなかった。(理由)

(4) 行きたければ、勝手に行きなさい。(条件)

(1)の「だから」は前後の文をつないで、「暗かった」が  
 「見えなかった」の理由となることを表しています。(3)の  
 「暗かったので」は、あとに続く「見えなかった」につな  
 がって、その理由を表しています。

このように、前後の部分をつないで、その関係を示したり、理由や条件などを表して、あとの部分につながったりする文の成分を接続語とといいます。そして、接続語とそれにつながる部分との関係を接続の関係とといいます。

## 独立語

- (1) ああ、涼しい風だ。(感動)
- (2) いいえ、ここが あなたの席です。(応答)
- (3) 全国大会優勝、これが 私たちの目標です。(提示)
- (4) おはよう、今日も がんばろう。(呼びかけ)

(1)の「ああ」は、あとに続く「涼しい風だ」と直接には結びついていません。このように、他の部分から独立している文の成分を独立語とといいます。

## 考えてみよう

次の文の——線部はそれぞれの成分にあたるか、ア～オから選びましょう。

- (1) 昨日の夜、華さんは 一生懸命に 宿題を した。

15

- (2) 涼しい風が 花の香りを 運んできた。
- (3) 熱があつたので、しかたなく 学校を 欠席した。

ア 主語           イ 述語           ウ 修飾語  
エ 接続語       オ 独立語

## 文の成分の組み立て

### 並立の関係

- (1) 雨や 風が 強い。
- (2) 太平洋は 深くて 広い。
- (3) 国語と 数学を 勉強する。

(1)の「雨や」という文節は、「風が」という文節と対等に並んでいます。このように、他の文節と対等に並んで結びつく文節を並立の文節とといいます。そして、並立の文節どうしの関係を並立の関係とといいます。

### 補助の関係

- (1) 解決方法を 考えて みる。
- (2) 道は そんなに 遠くは ない。
- (3) 私たちは 中学生で ある。

(1)の「考えて」と「みる」は互いに密接に結びついていて、前の文節の「考えて」が実質的な意味を表し、あとの文節の「みる」が「試しに行う」という意味を添えています。このように、実質的な意味を補助する文節を補助の文節といいます。そして、補助の文節と直前の文節との関係を補助の関係といえます。なお、補助の文節は、もともとの意味が薄れているため、平仮名で書くことが多くなっています。

並立の関係や補助の関係にある文節は、ひとまとまりになつて、全体で一つの大きな文の成分になります。

主・述の関係

並立の関係

(1) 雨や 風が 強い。

主語

述語

修飾・被修飾の関係

並立の関係

(2) 国語と 数学を 勉強して みよう。

補助の関係

修飾語

述語

国語と数学を

勉強してみよう。

✿ 考えてみよう

並立の関係・補助の関係にある次の二つの文節は、どのような文の成分になっているか考えましょう。

- (1) 暑さと 湿気で 汗が 止まらない。
- (2) 今日は 忘れずに 宿題を やって きた。
- (3) 失敗して しまったので、もう一回 やり直します。

文の成分どうしとの関係

主語と述語、修飾語と修飾される文の成分など、文の成分が対応していないと、読みにくさを感じます。文章を書くとき、見直すときは、文の成分どうしとの関係に注意しましょう。

✿ 考えてみよう

- 文の成分どうしとの関係に注意して、文を書き直しましょう。
- (1) 私たちの目標は、優勝を目ざして、全力で走りきります。  
↓ 私たちの目標は、優勝を目ざして、全力で( )。
  - (2) 彼の当選はあたくも初めから決まっていたに違いない。  
↓ 彼の当選はあたくも初めから決まっていた( )。

# 単語のいろいろ

単語は、「品詞」というグループに分けられることがわかったね。品詞は、文の中でどんな役割をしているかによって決まるんだよ。



## 自立語と付属語

### ✿ やってみよう

次の——線部の単語を、それだけで文節をつくることのできるものと、それだけでは文節をつくることのできないものとに分けてみましょう。

- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| (1) 駅 <small>に</small> 行く。    | (2) 考 <small>え</small> てくれ。   |
| (3) 美 <small>し</small> い。     | (4) 私 <small>の</small> だ。     |
| (5) おも <small>し</small> ろいね。  | (6) こ <small>の</small> 本は読んだ。 |
| (7) し <small>か</small> し、困った。 | (8) う <small>ん</small> 、わかった。 |

15

10

5

目標と振り返り

□ 自立語と付属語、活用の有無などの、品詞の分類の基準について理解する。

単語のうちで、それだけで文節をつくることのできるものを自立語といいます。

それだけでは文節をつくることのできず、必ず自立語のあとについて全体で文節をつくる単語を付属語といいます。

### ✿ 考えてみよう

次のそれぞれの単語が、自立語であれば——線を、付属語であれば——線をつけましょう。

- (1) すもも も もも もものうち。  
 (2) 君までもが忘れるなんてね。

付属語	自立語	付属語	自立語
単独で文節をつくることのできない。	単独で文節をつくることのできる。	一文節に必ず一つある。	一文節にないこともある。一つまたは二つ以上あることもある。
必ず自立語よりあとにくる。	いつも文節の最初にくる。	必ず自立語よりあとにくる。	必ず自立語よりあとにくる。



### 活用のある単語と活用のない単語

「歩く」という単語に「ない」や「た」を続けると、どのような形になるでしょうか。

○歩く + ない ↓ 歩かない

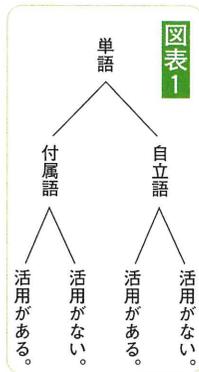
歩く + た ↓ 歩いた

このように、他の単語に続いたり、言い切ったりするとき、形が変わることを活用といいます。

#### ✿ 考えてみよう

次のそれぞれの単語で、活用のある語には—線を、活用のない語には＝線をつけましょう。

- (1) 午後 から 雨 が 降る らしい。
- (2) トム は 背 が 高い。
- (3) 保健室 は いつも きれいだ。



### 活用のない自立語

活用のない自立語には、主語になることのできるものと、主語になることのできないものがあります。

主語になることのできるものを、**名詞**といいます。名詞は、**体言**とも呼ばれます。主語になることのできないものは、その性質やはたらきによって、さらに分けられます。

#### ✿ 考えてみよう

次の中から、連体修飾語・連用修飾語・接続語・独立語になるものを、それぞれ二つずつ選びましょう。

- |          |          |
|----------|----------|
| (1) この   | (2) いきなり |
| (3) そして  | (4) あれっ  |
| (5) いわゆる | (6) もちろん |
| (7) または  | (8) もしもし |

主語になることのできないものの中で、連体修飾語になるものを**連体詞**、主に連用修飾語になるものを**副詞**、接続語になるものを**接続詞**、独立語になるものを**感動詞**といいます。

## 活用のある自立語

活用のある自立語のことを用言ようげんといいます。用言は、単独で述語になることができます。

用言は、言い切りの形の最後の音によって三種類に分けられます。

### ✿ 考えてみよう

次の単語を、最後の音によって、三種類に分けてみましょう。

- (1) 遠い      (2) 静かだ      (3) 考える  
 (4) 立派だ      (5) 泳ぐ      (6) おもしろい

ウ段の音で終わるものを動詞、「い」で終わるものを形容詞、「だ」(丁寧な言い方では「です」)で終わるものを形容動詞といいます。

287ページの図表1と下段の図表2・3の分類基準から品詞を分類すると、290ページの表の一部になるよ。確認してみよう！



図表2 活用のない自立語と文の成分

名詞	連体詞	副詞	接続詞	感動詞
主語になることができる。(「体言」)	連体修飾語になる。	主に連用修飾語になる。	接続語になる。	独立語になる。

図表3 活用のある自立語と言い切りの形

動詞	形容詞	形容動詞
ウ段の音で終わる。	「い」で終わる。	「だ」「です」で終わる。

## 活用のない付属語

活用のない付属語を助詞といいます。

助詞は、言葉どうしの関係を示したり、いろいろな意味を添えたりします。

- 風が強いが、寒くはない。
- 弟に本を買ってやる。
- 明日も雨だろうか。

## 活用のある付属語

活用のある付属語を助動詞といいます。

助動詞は、述語の意味を詳しくしたり、話し手の判断や気持ちを表したりします。

○見に行きたいが、時間がなくて行けない。

○森さんは昨日帰国したそうだ。

▼「お菓子」の「お」のように、それ自身は単独では使われず、他の単語の前につく言葉を接頭語という。同様に、「お客さん」や、「高さ」、「大人ぶる」のように、他の単語のあとにつく言葉を接尾語という。

これまで見てきたような、単語をその性質やはたらきによって分類したものを、品詞といいます。次のページにある「品詞分類表」を見て、それぞれの特徴を確認しましょう。

▼ある品詞の活用した形や、接尾語（「み」「さ」など）をつけたものなどが、他の品詞になることを品詞の転成という。

- ・踊る↓踊り（動詞↓名詞）
- ・重い↓重み・重さ（形容詞↓名詞）
- ・恥ずかしい↓恥ずかしがる（形容詞↓動詞）

15

10

5

### いろいろな品詞

品詞とは、文法的な性質によって単語を分類したグループのことをいいます。単語の品詞を見分けるときには、次のような点に気をつけるとよいでしょう。

○活用があるかないか

○どのような文の成分になるか

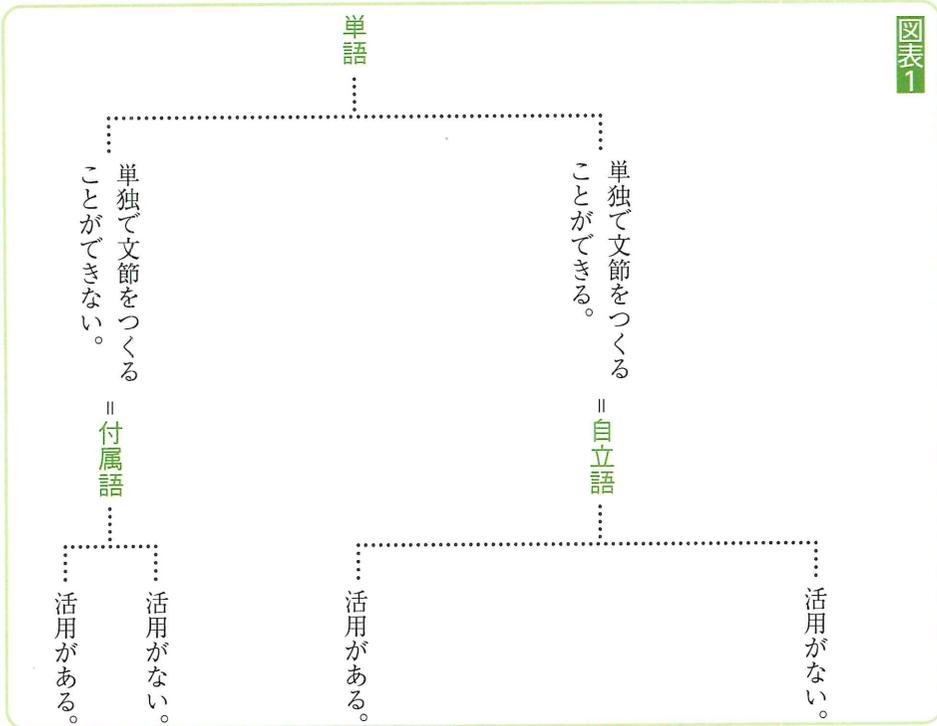
○（活用がある場合は）言い切りの形はどのような形か

品詞名は、国語辞典でも調べられますが、中には複数の品詞名があげられている単語も少なくありません。例えば、「健康」という単語では、名詞と形容動詞があげられています。「健康」は、活用がなく、主語になるため（「健康が大切だ。」）、名詞に分類されます。また、活用があり（健康だろ（ウ）、健康だつ（タ）、健康に（ナル）、健康な（コト）、健康なら（バ）、……）、単独で述語になることができ、言い切りの形が「だ」あるいは「です」で終わる（「祖父母は健康だ／健康です。」）という点から、形容動詞にも分類されます。

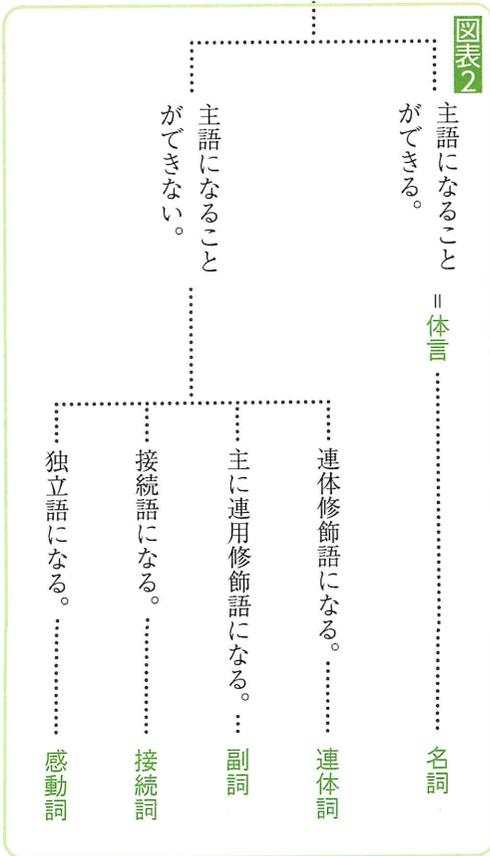
品詞は、文の中でどのような役割をしているかによって決まります。したがって、「健康」のように、複数の品詞に分類されることのあるのです。他にも「勉強」や「スポーツ」のような、動詞で使う場合に必ず「する」をつける単語は、名詞と動詞に分類されるなど、いろいろなパターンがあります。

# 品詞分類表

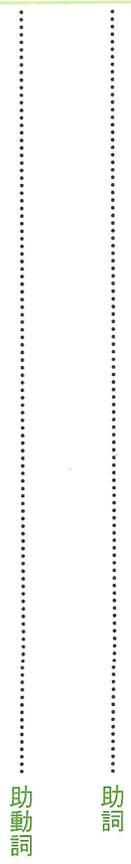
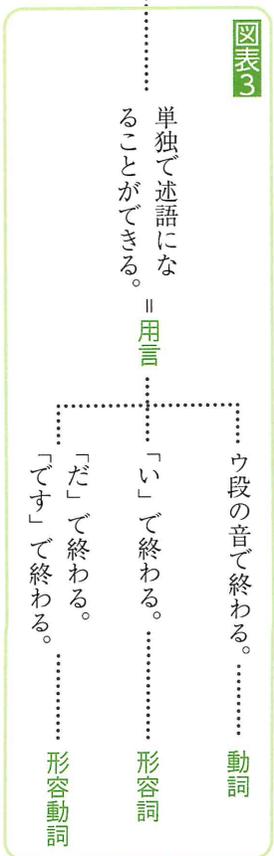
図表1



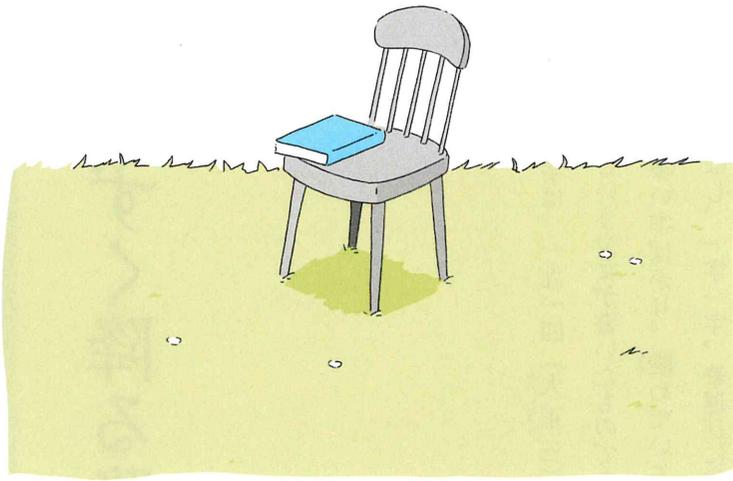
図表2



図表3



# 言葉の自習室



銀のしずく降る降る	藤本英夫	292
蓬萊の玉の枝と偽りの苦心談	星野富弘	302
花の詩画集	星野富弘	304
デューク	江國香織	306
伝統芸能へのいざない 落語		311
十二支と月の呼び名		312
アイデアの出し方		313
原稿用紙の使い方と推敲		314
「学びナビ」一覧		315
理解に役立つ言葉		318
表現に役立つ言葉		320
話すこと・書くことテーマ例集		322
学習に必要な用語(索引)		323



ユーカラ研究に取り組んだ女性の生き方について考える。

# 銀のしずく降る降る

藤本 英夫  
ふじもと ひでお

## 1 ふくろうの神

ここにあげた一枚の習字は、一九一四（大正三）年二月、小  
学校四年だった知里幸恵ちりゆきえという少女が書いたものである。

「土」のほかは画数の多い字ばかり。眺めてみると、机に向  
かって背筋をまっすぐ伸ばし、一字一字、筆運びに神経を集中さ



10

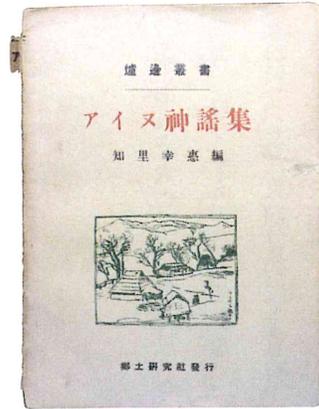
せている少女の緊張感が迫ってくる。この少女は、それから十  
年もたたない一九二二（大正十一）年に、十九歳三か月の短い生  
涯を閉じた。

彼女はアイヌの女性であった。

知里幸恵には『アイヌ神謡集』という著書がある。一九二三年  
の出版だから、彼女は、ただ一冊の自分の本を手にもすることな  
く死んだことになる。文庫本よりちよつと大きめで、本文は一二  
二ページ、中には、アイヌの人たちに古くから伝わってきた叙事  
詩十三編が収められている。左ページにはローマ字で書かれたア  
イヌ語、右ページにはその一行一行を訳した和文が見られる。

次にあげたのは最初の一編、『梟の神の自ら歌った謡』の部分である。一語一語の適切な訳と表現の豊かさ、美しさに、当時、詩人たちの間からささえ、「十九歳の若さでよくこれだけ書けたもの。」と、驚きの声<sup>おどろ</sup>が聞かれた。

「Shirokanipe」の「Shirokani」は、日本語の「シロガネ」が「シロカネ」→「シロカニ」と変化したアイヌ語で、「銀」のこと。「pe」は水を意味するアイヌ語。ただし、「pe」自体に日本語の「しずく」という意味があるわけではない。そのあとの「ranran」（降る降る）という言葉のもつニュアンスに心が通ってあればこそその訳である。「銀の水、降る降る……」ではいかにも直訳的で、「ranran」が生きていない。



知里幸恵がついにその刊行  
を見ることのできなかつた  
『アイヌ神謡集』

10

5

Kamuichikap kamui yaieyukar,  
“Shirokanipe ranran pishkan”

“Shirokanipe ranran pishkan, konkanipe  
ranran pishkan.” arian rekpo chiki kane  
petesoro sapash aine, ainukotan enkashike  
chikush kor shichorpokun inkarash ko  
teeta wenkur tane nishpa ne, teeta nishpa  
tane wenkur ne kotom shiran.  
Atuitekсам ta ainuhekattar akshinotponku  
akshinotponai euweshinot korokai.  
“Shirokanipe ranran pishkan,  
konkanipe ranran pishkan.” arian rekpo  
chiki kane hekachiutar enkashike  
chikush awa, unchorpoke ehoyuppa

梟の神の自ら歌った謡  
「銀の滴降る降るまわりに」

「銀の滴降る降るまわりに、金の滴  
降る降るまわりに。」という歌を私は歌いながら  
流に<sup>ながれ</sup>沿って下り、人間の村の上を  
通りながら下を眺めると  
昔の貧乏<sup>びんぼう</sup>人が今お金持<sup>かねもち</sup>になっていて、昔のお金持が  
今の貧乏人<sup>びんぼう</sup>になっている<sup>よう</sup>様です。  
海辺に人間の子供たちがおもちゃの小弓に  
おもちゃの小矢<sup>お</sup>をもってあそんで居ります。  
「銀の滴降る降るまわりに  
金の滴降る降るまわりに。」という歌を  
歌いながら子供等の上を  
通りますと、(子供等は)私の下を走りながら  
……………

この物語で、「Shirokanipe ranan……」と歌っている主人公の

「私」は、コタンを守ってくれる、位の高いふくろうの神で、その位の高い神が自らの体験を語るといふ形になっている。『アイヌ神謡集』には、この他、きつねやうさぎ、かえる、沼貝などの自然神を主人公にした物語が載せられている。

このような自然神の物語は短編であるが、アイヌの口伝えの叙事詩には、人間の祖先神や英雄が主人公になっている長編物語もある。これらは、まとめてユーカラと呼ばれている。したがって幸恵の『アイヌ神謡集』もユーカラ集ということになる。そこに収められた十三編は、彼女の祖母金成モナシノウクが暗唱していたものの一部である。金成家には、他にもたくさん、遠い祖先から代々語り継がれたユーカラがあった。

## 2 グスベリの頃

知里幸恵は一九〇三（明治三十六）年六月八日、今の登別市で生まれた。父・知里高吉、母・ナミの長女である。

その頃の登別はまだ寒村だった。人口は約二千五百、うちアイヌの人は二百数十人。住民の大多数は、明治の初めに、今の宮城県（しゅういしはん）の南の外れにあった白石藩から移住してきた人たちの子孫で

あった。

幸恵が生まれた頃、知里家は農業と牧畜を生業としていた。母ナミの実家は、知里家とは山一つ隔てた隣村の金成家である。金成家は、キリスト教を熱心に布教していた聖公会の牧師、ジョン・バチエラーと親しかった。その縁でナミは姉のマツと一緒に、バチエラーから洗礼を受けていた。二人はまた、聖公会が、伝道師養成のため、函館につくった学校に通ったこともある。姉妹はここでローマ字と英語を学んでいる。

幸恵が生まれた翌年、日露戦争が始まり、高吉はこの戦いに召集される。妻のナミは、よちよち歩きの幸恵を抱いて夫の留守をよく守った。

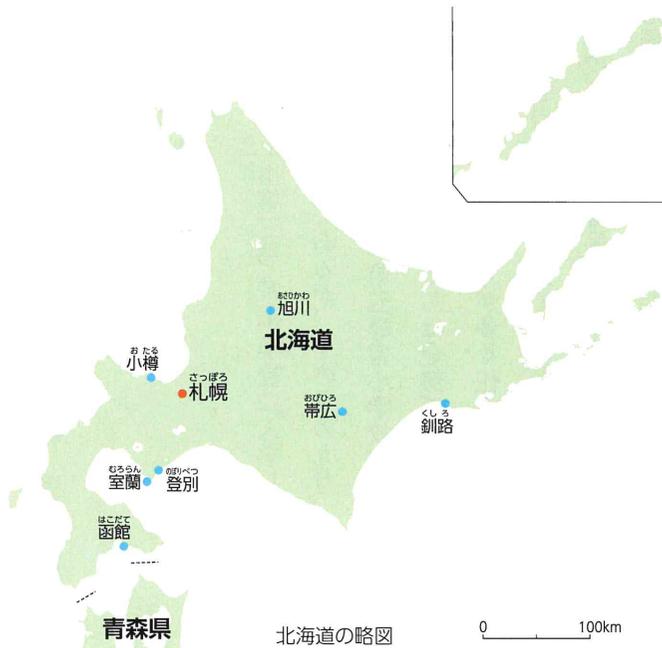
戦争が終わって、高吉が帰り、しばらくの間知里家は平和だった。まもなく、二人の弟、高央、真志保が生まれた。

幸恵の家のすぐ近くには、アイヌの祖先がヌプル・ペツ（水色の）濃い・川」と呼んだ、きれいな小川があった。今の登別川である。家の後ろの丘の上からは、広い太平洋を遠く水平線まで望むことができた。幸恵は、弟たちや近所の子どもたちと、この川で小魚をすくい、丘でたんぽぽやグスベリの実を摘んだ。また、海辺の砂浜では、線を引いて玄関や台所をつくったり、ままごと

遊びをしたりした。

しかし、このような幸恵の平和も長くは続かなかった。家業が不振に陥ったからである。幸恵が小学校に上がる少し前の頃だった。

ちょうどその頃、伯母のマツが聖公会の伝道師として旭川の近文に赴任していた。



北海道の略図

5

マツは独り暮らしだったので、幸恵が来れば寂しさも紛れるし、家業がふるわなくなったナミも助かるだろう、と考えた。そこでマツは、ナミと相談し、しばらく幸恵を預かり、旭川の自分のところで小学校に上げることにした。

その頃、旭川の人口は約四万五千で、登別に比べると大都会であった。アイヌの人口はそのうち二百三十人ぐらいにすぎなかった。都会の学校で、見ず知らずの大勢の和人の子どもに囲まれ、幸恵は心細くなることがあったろう。そんなとき、彼女は、たん

\*コタン P 294 上 2

アイヌ語で「集落」のこと。国土・世界という広い意味に使われることもある。

\*グスベリ P 294 上 13

グーズベリ。西洋すぐりのこと。高さ一〜二メートルの落葉低木。球形の果実は食用となる。

\*聖公会 P 294 下 4

キリスト教の一教派。

\*ジョン・パチエラー P 294 下 4

一八五四―一九四四 イギリス人。布教のかたわら、アイヌ研究に生涯をささげた。

\*和人 P 295 下 7

ここでは、主に本州から移住してきた日本人をさす。

ぼぼやグスベリを摘んで一緒に遊んだ故郷、登別の友達を、懐かしく思い出したにちがいない。

### 3 一つの悩み

幸恵が旭川の上川第三尋常小学校に入学したのは、一九一〇（明治四十三）年四月であるが、その年の九月、アイヌの子どもたちだけを通学させる上川第五尋常小学校がつくられ、彼女もその学校に転校した。子どもたちは全部で二十八人、男女半々だった。学校は、アイヌの人たちが多く住んでいる近文地区の、マツが勤める教会の敷地続きに建てられた。

この学校で彼女は、皆勤賞や精勤賞を受けるほど健康であり、成績も優秀であった。何かの都合で教師が不在のときは、低学年の勉強の相談相手になったりもした。子どもたちの家庭では、アイヌ語が日常的に使われていたので、日本語で書かれた教科書は難しく、教師の授業が理解できない者がかなりいたが、そういう子どもたちにも幸恵の話はよくわかったという。

こんなこともあった。

学校の近くに住む子どもたちは、昼食を自分の家に帰って食べていた。ある日、幸恵より一年下の女の子が、学校に戻ってくる



女子職業学校入学当時の幸恵

と、もう午後の授業が始まっていた。家の時計が遅れていたのだ。先生は大声でどなりながら、彼女を殴り飛ばした。彼女はおぼろちゃんになってからも、当時を回想して、「飛ばされて尻餅をついたとたん、私は恥ずかしいことにオシッコを漏らしてしまいました。すると、幸恵さんは私を廊下に連れ出し、黙って後始末をしてくれました。」と、幸恵をしのんでいた。

一九一六（大正五）年、小学校を卒業した幸恵は、一年生の時少し通学したことのある上川第三尋常高等小学校の高等科に入学した。その翌年、彼女は高等科一年修了で、旭川区立女子職業学校を受験、四番という優秀な成績で合格した。しかし、幸恵に

は悩みがあった。「副級長を引き受けてもいいか、どうか。」ということがある。その女学校では、一学年二クラスの役員を入学試験の成績順に決めていた。そのことを彼女は高等科一年の担任だった伊藤正明先生に相談した。先生は優れた教え子をもったことがうれしかった。だが、喜ばしいはずのことを、ためらうように相談する教え子の心の迷いに胸が痛んだ。

伊藤先生は、その時のつらい思い出を次のように語っている。

「幸恵さんは、高等科一年に入ってきた時、ここはあなたの来るところではない、と和人の子どもから仲間はずれにされたことがあった。事前に、偏見をもつて迎えてはならない、とよく言い聞かせてあったのに、あまり効果がなかった。そんなこともあったから、どちらかといえば、はて好みの雰囲気のある女学校で、たった一人のアイヌの子の幸恵さんがクラスの中で目だつところについては、つらいことになるのでは、と考えました。」

この時、幸恵は副級長を辞退した。二年生になると級長に選ばれたが、この時は級長を辞退し、副級長となった。

こうして心ならずも、人の目から遠ざかろうとしたこともあり、健康面でもかげりが見え始めたこともあって、女学校時代の幸恵は、級友たちに、「静かな人であった」という印象を残している。

その頃両親に宛てた手紙には、彼女の熱い望郷の思いが書かれている。

……私は海が懐かしくなりません。旭川は四方が山ですから、どこを見ても木ばかり草ばかり家ばかり、見渡すかぎり果てしないような上川平原、それはそれはいい景色ですけど、海がないのがなんだかもの足りないような気がします。

そうした幸恵に、やがて大きな転機が訪れた。

金田一京助博士との出会いである。

#### 4 近文の一夜

その頃、金田一はアイヌ語研究を始めてから二十年、ようやく

\*尋常小学校 P 296上5

当時の小学校の名称。

\*上川第三尋常高等小学校 P 296下17

大正二年に高等科が新設された。

\*金田一京助 P 297下10

一八八二—一九七一 言語学者。特にアイヌ語研究に大きな業績を残した。

その業績が世に認められてきた少壮の言語学者だった。調査のため、たびたび北海道を訪れていた彼は、一九一八（大正七）年の夏、バチエラーに紹介されて金成マツを訪ねて旭川に来た。マツの母モナシノウクからユーカーラを聞くためである。モナシノウクは、後に、金田一が「アイヌの最後の最大の叙事詩人」と絶賛した、非凡な暗唱力をもつ女性だった。

ちようど金田一が玄関に立った時、「ただいま。」と、学校から帰ってきた少女がいた。幸恵である。

初めての訪問だったが話はずみ、彼はその夜、マツの家に泊まった。

ところで、第一次世界大戦がようやく終わりに近づいたこの年、日本ではシベリア出兵などの影響で、各地に米騒動が起きるほど米の値段が高くなっていた。伝道師のマツの収入では、「泊まっていられっしやい。」とは言ったものの、遠来の客をもてなす米を買う余裕はなかった。この時の様子は金田一の随筆『近文の一夜』に、次のように描かれている。

……アイヌ語で口々に、「明日何さしあげる?」「あげるようなものがあった?」「お口に合うようなものが何もないんだ

ものなあ。」と、嘆くのが、私にそれとわかった。私は、その気づかいが気の毒に身にこたえて、「いや、そのことなら、なにもご心配はいりません。ジャガイモをゆでてください。北海道のジャガイモはおいしいんですね。私は日高や北見ではよくそうしてもらってます——」

と言うと、わかられまいと思っただけの内輪話の、わかられた驚きをつきまぜて、笑いこけながら、

「だってそれではあんまり……」

「お気の毒で……」

「お気の毒だなあ。」と、顔を見合わせる。

一夜明けると、マツは、幸恵の女学校での作品を金田一に見せるほど心が打ち解けていた。それを見た金田一は、その中でも日本語で書かれた作文の文章の美しさに驚いた。そのうえ幸恵が、アイヌ語の難しい古語でうたわれている長編叙事詩も暗唱していることを知り、重ねて目をみはった。幸恵には、日本語とアイヌ語の二つの言語生活があったのだ。

一方、幸恵は、日本人の学者が遠くからわざわざユーカーラを聞きに来たのを不思議に思った。こんな質問をされたことを、金田

一京助は別の思い出の中に書いている。

「私たちのユーカラのどこに、そんな値うちがあるのですか。」

(『私の歩いて来た道』)

幸恵の率直な質問に、金田一は熱っぽく答えた。

「ユーカラは、あなたがたの祖先が、長い間、口伝えに伝えてきた叙事詩だ。ヨーロッパでも、あの『イリアス』『オデュッセイア』も、その最後の伝承者ホメロスの時、文字が入って初めて書かれたものだよ。これらの叙事詩は、民族の歴史であると同時に、大事な文学なんだ。今の世に、文字以前の叙事詩の姿をそのまま伝えて例は、世界にユーカラのほかにはない——。」

聞いた幸恵は、金田一の言葉でユーカラのすばらしさを改めて感じ、目に涙を浮かべながら、「これからは、私も生涯を、祖先が残してくれたユーカラの研究にささげます。」と約束した。

金田一も、十五歳のこの少女の決意を聞いて、深く心を打たれた。そして、なんとか彼女を東京に連れて行って勉強させたい、と思うのだった。

## 5 「その昔」

だが、幸恵は女学校を卒業した一九二〇（大正九）年の春には、

金田一のそういう願いに応えられない健康状態になっていた。医者から、慢性の気管支カタルだから、滋養をとって安静にしているように、と言われていたのである。

彼女のこのような衰弱の様子は、上京を心待ちにしていた金田一にも知らされていた。彼は、「早くよくなって、気の向くままにお書きつけください。」と、ユーカラ筆録用に数冊のノートを送って励ました。

幸恵は、ユーカラを筆録するために、伯母のマツからローマ字を習い始めた。女子職業学校ではローマ字の勉強をしなかったからである。一年後、金田一のとこに初めて送られたノートの

### \*第一次世界大戦 P.298上11

一九一四年—一九一八年。

### \*シベリア出兵 P.298上12

ロシア革命で成立したソビエト政権を倒そうと、日本・アメリカなどがシベリアに派兵した事件。

### \*米騒動 P.298上12

米価の暴騰のため生活難に苦しんでいた民衆が、米の安売りを要求して、米屋・警察などを襲撃した事件。

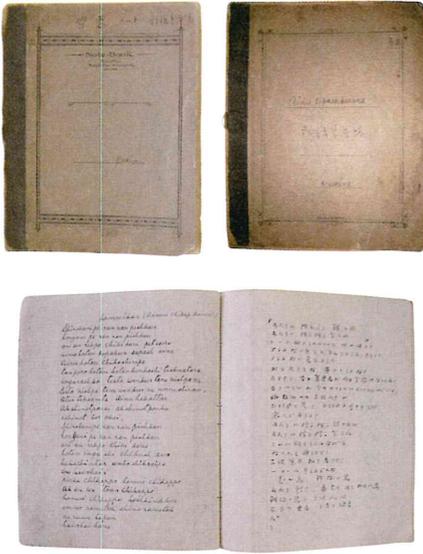
### \*『イリアス』『オデュッセイア』 P.299上6

ホメロスの作と伝えられる、ギリシア最古の長編叙事詩。紀元前八〇〇年頃にまとめられた。

ローマ字はみごとにまとめたものだった。体のぐあいをみながら書き上げられた筆録を見て、金田一は、「あまり立派なできで、私は涙がこぼれるほど喜んでおります。」という手紙を送っている。

幸恵はその後、さらに二冊のユーカラ筆録ノートを金田一に送る。金田一は、彼女のノートを広く世に送り出したいと考えて、柳田国男や渋沢敬三の助力を仰いだ。やがて出版のめどがたち、幸恵は、原稿を完成させるために、一九二二（大正十一）年五月に上京して、金田一家に身を寄せた。

東京では、原稿の整理を続けながら、金田一にアイヌ語を教えたり、金田一から英語を習ったりした。この年の暑さは、例年よ



幸恵がユーカラを筆録したノート

りも厳しく、幸恵の健康状態はしだいに悪化していった。

『アイヌ神話集』と名づけられたこの本の最後の校正を終えた幸恵は、安心したのか、容態が急変し、金田一家の人々にみとられながら、帰らぬ旅についた。翌日、金田一家の人々と根津権現のお祭りを見に行くのを楽しみにしていたという。

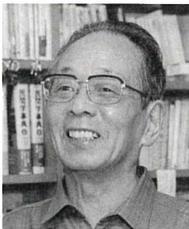
九月十八日の夜だった。

『アイヌ神話集』の序文にはこう書かれている。

その昔この広い北海道は、私たちの先祖の自由な天地でありました。天真爛漫な稚児の様に、美しい大自然に抱擁され、のんびりと楽しく生活していた彼らは、真に自然の寵児、なんと幸福な人たちであつたでしょう。

……アイヌに生まれアイヌ語の中に生い立った私は、雨の宵、雪の夜、暇あるごとに打集うて私たちの先祖が語り興じたいろいろな物語のうちごく小さな話の一つ二つをつたない筆に書き連ねました。

私たちが知ってくださる多くの方に読んでいただくことができますならば、私は、私たちの同族祖先とともに本当に無



知里幸恵 文学碑（旭川市）



知里幸恵 銀のしづく  
記念館（登別市）

藤本 英夫 「一九二七—二〇〇五」

北海道に生まれた。作家。

作品に『銀のしづく降る降るまわりに』『金  
田一京助』『泉靖一伝』などがある。

《出典》本書のために書きおろしたものである。

限の喜び、無上の幸福に存じます。

今、幸恵の墓は故郷登別の丘の上に立っている。そこからは、  
彼女が幼い頃、友達と遊んだ広い海が見える。

\*柳田国男 P 300 上 6

一八七五—一九六二 民俗学者。日本民俗学の基礎を築いた。著書に  
『遠野物語』などがある。

\*渋沢敬三 P 300 上 6

一八九六—一九六三 実業家。民俗学の発展に寄与した。

# 広がる本の世界



アイヌと神々の物語  
炉端で聞いたウエペケレ  
萱野茂

「ウエペケレ」とはアイヌの昔話。  
神や動物が劇的な物語をつむぐ。



しおかりとうげ  
塩狩峠  
三浦綾子

暴走した列車を全力で止めようとする  
信夫。愛と哀しみの物語。



『竹取物語』の別の場面を読む。

# 蓬菜の玉の枝と偽りの苦心談

## 竹取物語

かぐや姫から難題を出された五人の貴族の若者は、それぞれ知恵や富を使つて望みの品を手に入れようとなりました。くらもちの皇子は、蓬菜の玉の枝を探しに行くと言つて船に乗りますが、ひそかに引き返してきました。そして、人目につかないようにしながらにせものの蓬菜の玉の枝を六人の職人に作らせます。三年ほどのちに、完成した玉の枝を持つて皇子は竹取の翁の家を訪れ、偽りの苦心談を語ります。

「船の行くにまかせて、海に漂ひて、五百日といふ辰の時ばかりに、海の中に、はつかに山見ゆ。船のかぢをなむ迫めて見る。海の上に漂へる山、いと大きにてあり。その山のさま、高くうるはし。『これやわが求むる山ならむ。』と思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二、三日ばかり、見歩くに、天人のよそほひしたる女、山の中よりいで来て、銀の金鏡を持ちて、水をくみ歩く。

「船の行くのにまかせて、海に漂つて、五百日めという日の午前八時頃に、海上に、かすかに山が見えます。船のかぢを操作して、島に近づいて見ました。海の上に漂っている山は、大変大きいものでした。その山の様子は、大きくて立派なものでした。『これが私が求めている山だろう。』と思つて、やはり恐ろしく思われて、山の周囲を漕ぎめぐらせて、二、三日ばかり、見て回っていますと、天人の衣装を着た女の人が、山の中から出てきて、銀のおわんを持って、水をくんで歩いていきます。

これを見て、船より下りて、『この山の名を何とか申す。』と問ふ。女、答へてはいはく、『これは、蓬萊の山なり。』と答ふ。これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

その山、見るに、さらに登るべきやうなし。その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。金、銀、瑠璃色の水、山より流れいでたり。それには、色々の玉の橋渡せり。その辺りに照り輝く木ども立てり。その中に、この取りて持ちてまうで来たりしは、いとわろかりしかども、『のたまひしに違はましかば。』と、この花を折りてまうで来たるなり。」

《出典》『新編日本古典文学全集12 竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』によった。

このような話をしていると、職人たちがやってきました。職人たちが、「千日あまりも働いたのに、まだほうびをもらっていない。」と訴えたため、くらのちの皇子の偽りが、かぐや姫や竹取の翁にわかってしまいました。

これを見て、（私は）船から下りて、『この山の名を何とか申しますか。』と尋ねました。その女の人は、答えて、『これは、蓬萊の山です。』と言いました。これを聞いて、うれしくてたまりませんでした。

その山は、見ると、（険しくて）全く登れそうもありません。その山の斜面の裾を回ってみると、見たこともない花の木々が立っています。金色、銀色、瑠璃色の水が、山から流れ出ています。その流れには、さまざまな色の宝玉でできた橋が渡してあります。その辺りに光り輝く木々が立っています。その中で、ここに取ってまいりましたのは、たいそう見劣りするものでしたが、（かぐや姫が）おっしゃったのと違っていたら（困る）。』と、この花を折ってまいったのです。」



表現をとおして、書き手の発見<sup>とら</sup>を捉える。

# 花の詩画集

ほしの  
星野 富弘  
とみひろ

麦の穂  
となりも  
麦の穂  
ぶつからず  
離れすぎず  
特に高いものもなく  
特に低いものもなく  
にてるけれど  
みんなちがう  
麦の穂  
太陽の弓矢



麦の穂<sup>ほ</sup>  
となりも  
麦の穂  
ぶつからず  
離れ<sup>はな</sup>すぎず  
特に高いものもなく  
特に低いものもなく  
にてるけれど  
みんなちがう  
麦の穂  
太陽の弓矢

筆を噛み砕きたい  
 時がある  
 倉のように  
 突きたてたい  
 時もある  
 さまざまな思いが  
 風のように過ぎて  
 花を見ている



筆を噛み砕きたい  
 時がある  
 槍のように  
 突きたてたい  
 時もある  
 さまざまな思いが  
 風のように過ぎて  
 花を見ている



星野 富弘 [一九四六—二〇二四]

群馬県に生まれた。元中学校体育教師。部活動の指導中、頸髄を損傷し、手足の自由を失うが、口に筆をくわえて詩画の創作を続けている。各地で開かれる展覧会は大きな感動を呼んでいる。一九九一年、富弘美術館開館。

《出典》『鈴の鳴る道』（麦の穂）、『花よりも小さく』（アネモネ）によった。



他者とのふれあいについて考える。

# デューク

江國香織

歩きながら、私は涙が止まらなかつた。二十一にもなつた女が、  
びよびよお泣きながら歩いているのだから、他の人たちがいぶ  
かしげに私を見たのも、無理のないことだつた。それでも、私は  
泣きやむことができなかった。

デュークが死んだ。

私のデュークが死んでしまつた。

私は悲しみでいっぱいだつた。

デュークは、グレーの目をしたクリーム色のムク毛の犬で、  
プリー種<sup>\*</sup>という牧羊犬だつた。わが家にやってきた時には、ま  
だ生まれたばかりの赤ん坊<sup>ぼ</sup>で、廊下<sup>ろうか</sup>を走ると手足が滑<sup>すべ</sup>つてぺたん  
と開き、すーっとおなかで滑<sup>すべ</sup>つてしまつた。それがかわいくて、  
名前を呼んでは何度も廊下を走らせた。(そのかつこうがモツプ  
に似ていると言つて、みんなで笑つた。) 卵料理と、アイスク

10

5

リームと、梨が好物だつた。五月生まれのせいか、デュークは  
初夏がよく似合つた。新緑<sup>こころ</sup>の頃に散歩に連れていくと、匂<sup>にお</sup>やかな  
風に、毛をそよがせて目を細める。すぐにすねるたちで、すねた  
横顔<sup>\*</sup>はジェームス・デーインに似ていた。音楽が好きで、私がピ  
アノを弾くと、いつもうずくまって聴<sup>き</sup>いていた。そうして、  
デュークはとてども、キスがうまかつた。

死因は老衰<sup>ろうすい</sup>で、私がアルバイトから帰ると、まだかすかに温か  
かつた。膝<sup>ひざ</sup>に頭を載<sup>の</sup>せてなでているうちに、いつのまにか固く  
なつて、冷たくなつてしまつた。デュークが死んだ。

次の日も、私はアルバイトに行かなければならなかつた。玄關<sup>げんかん</sup>  
で、妙<sup>みょう</sup>に明るい声で「行ってきます。」を言い、表に出てドアを  
閉めたとたんに涙があふれたのだつた。泣けて、泣けて、泣きな  
がら駅まで歩き、泣きながら改札口で定期を見せて、泣きながら

ホームに立って、泣きながら電車に乗った。電車はいつものとおり混んでいて、かばんを抱えた女学生や、似たようなコートを着たお勤め人たちが、ひっきりなしにしゃくりあげている私を遠慮会釈なくじろじろ見つめた。

「どうぞ。」

無愛想にぼそつと言って、男の子が席を譲ってくれた。十九歳くらいだろうか、白いポロシャツに紺のセーターを着た、ハンサムな少年だった。

「ありがとう。」

蚊の鳴くような涙声でようやくひと言お礼を言って、私は座席に腰かけた。少年は私の前に立ち、私の泣き顔をじつと見ている。深い目の色だった。私は少年の視線に射すくめられて、なんだか動けないような気がした。そして、いつのまにか泣きやんでいた。

私の降りた駅で少年も降り、私の乗り換えた電車に少年も乗り、終点の渋谷までずっと一緒だった。どうしたの、とも、だいじょうぶ、ともきかなかったけれど、少年はずっと私のそばにいて、満員電車の雑踏から、さりげなく私をかばってくれていた。少しずつ、私は気持ちが悪くなり落ちて着いてきた。

「コーヒーごちそうさせて。」

電車から降りると、私は少年に言った。

十二月の街は、あわただしく人が行き来し、からっ風が吹いていた。クリスマスまでまだ二週間もあるのに、あちこちにツリーや天使が飾られ、ビルには歳末大売り出しの垂れ幕がかかっていた。喫茶店に入ると、少年はメニューをちらっと見て、

「朝ご飯、まだなんだ。オムレツも頼んでいい。」

ときいた。私が、どうぞ、と答えると、うれしそうにこつと笑った。

公衆電話からアルバイト先に電話をして、風邪をひいたので休ませていただきます、と言ったのを聞いていたとみえて、私がテーブルに戻ると、

\*プリー種 P 306 上9

体高四〇センチメートルほどで、長く、カールした体毛に全身覆われる。ハンガリー原産。遊牧民によりもたらされ、もとは、羊の番をする牧羊犬として使われていた。

\*ジエームス・デイン P 306 下4

一九三一—一九五五 アメリカの俳優。代表的な出演映画に『エデンの東』『理由なき反抗』『ジャイアンツ』がある。

\*渋谷 P 307 上15

東京都渋谷区中央部にある地名。渋谷駅を中心とした繁華街。

「じゃあ、今日は一日暇なんだ。」

少年はぶつきらぼうに言った。

喫茶店を出ると、私たちは坂を上った。坂の上のいい所がある、と少年が言ったのだ。

「ここ。」

彼が指さしたのは、プールだった。

「冗談じゃないわ。この寒いのに。」

「温水だから平気だよ。」

「水着持ってないもの。」

「買えばいい。」

自慢ではないけれど、私は泳げない。

「嫌よ、プールなんて。」

「泳げないの。」

少年がさもおかしそうな目をしたので、私はしゃくになり、黙ったまま財布から三百円出して、入場券を買ってしまった。

十二月の、しかも朝っぱらからプールに入るような酔狂は、

私たちのほか誰もいなかった。おかげで、その広々としたプールを二人で独占してしまった。少年はきびきびと準備体操をすませ、しなやかに水に飛び込んだ。彼は、魚のように上手に泳いだ。

プールの人工的な青も、カルキの匂いも、反響する水音も、私にはとても懐かしかった。プールなど、いつたい何年ぶりだろう。ゆつくり水に入ると、体がゆらゆらして見える。

突然ぐんと前に引っぱられ、ほとんど転ぶようにうつぶせになって、私は前に進んでいた。まるで、誰かが私の頭を糸で引っぱってでもいるように、私はどンドン泳いでいた。すつと、糸を引く力が弱まった。あわてて立ち上がって顔を拭くと、もうプールのまん中だった。三メートルほど先に少年が立っていて、私の顔を見てにっこり笑った。私は、泳ぐって、気持ちのいいことだったんだな、と思った。

少年も私も、ひと言も言わずに泳ぎ回り、少年が、「あがろうか。」

と言った時には、壁の時計はお昼をさしていた。

プールを出ると、私たちはアイスクリームを買って、食べながら歩いた。泳いだあとの疲れも心地よく、アイスクリームの甘さは、舌にうれしかった。この辺りは、少し歩くと閑静な住宅地で、駅の周りの喧騒が嘘のようだった。私の横を歩いている少年は背が高く、端正な顔だちで、私は思わずドキドキしてしまった。晴れた真昼の、冬の匂いがした。

地下鉄に乗って、私たちは銀座ぎんざに出た。今度は私が、いいところを教えてあげる番だった。裏通りを十五分も歩くと、小さな美術館がある。目だたないけれどちんまりとした、いい美術館だった。私たちはそこで、まず中世イタリアの宗教画を見た。それから、古いインドの細密画を見た。一枚一枚、丹念たんねんに見た。「これ、好きだなあ。」

少年がそう言ったのは、くすんだ緑色の、象と木ばかりをモチーフにした細密画だった。

「古代インドはいつも初夏だったような気がする。」

「ロマンチストなのね。」

私が言うと、少年は照れたように笑った。

美術館を出て、私たちは落語を聴きに行った。たまたま演芸場の前を通って、少年が落語を好きだと言ったからなのだが、いざ中に入ると、私はだんだん憂鬱ゆううつになってしまった。

デュークも、落語が好きだったのだ。夜中に目が覚めて下におりた時、消したはずのテレビがついていて、デュークがちよこんと座すわって落語を見ていた。父も、母も、妹も信じなかったけれど、本当に見ていたのだ。

デュークが死んで、悲しくて、悲しくて、息もできないほど

だったのに、知らない男の子とお茶を飲んで、プールに行つて、散歩をして、美術館を見て、落語を聴いて、私はいったい何をしているのだろう。

だしものは、大工しらべだいこうしらべだった。少年はときどき、おもしろそうにくすくす笑ったけれど、私は結局一度も笑えなかった。それどころか、だんだん心が重くなり、落語が終わって、大通りまで歩いた頃には、もうすっかり、悲しみが戻ってきていた。

デュークはもういない。

デュークがいなくなつてしまった。

大通りにはクリスマスソングが流れ、薄青うすあおい夕暮れに、ネオンがぼつぼつつき始めていた。

「今年ももう終わるなあ。」

少年が言った。

\*カルキ P 308 下 1

クロールカルキの略。クロールは塩素、カルキは石灰せっかいのこと。俗ぞくにさらし粉ともいう。水道水やプールの水などの消毒に使用する。

\*銀座 P 309 上 1

東京都中央区南西部にある繁華街。その名は、江戸幕府が定めた銀貨ぎんぎょうの鑄造、発行所に由来する。

「そうね。」

「来年はまた新しい年だね。」

「そうね。」

「今までずっと、僕は楽しかったよ。」

「そう。私もよ。」

下を向いたまま私が言うと、少年は私の顎をそっと持ち上げた。

「今までずっと、だよ。」

懐かしい、深い目が私を見つめた。そして、少年は私にキスをした。

私があんなに驚いたのは、彼がキスをしたからではなく、彼のキスがあまりにもデュークのキスに似ていたからだった。茫然として声も出せずにいる私に、少年が言った。



## 江國 香織 「一九六四」

東京都に生まれた。作家。

作品に『きらきらひかる』『こづばしい日々』『神様のポート』『号泣する準備はできていた』などがある。

《出典》『つめたいよるに』によった。

「僕もとても、愛していたよ。」

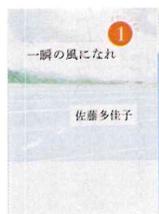
寂しそうに笑った顔が、ジエームスディーンによく似ていた。

「それだけ言いに来たんだ。じゃあね。元気で。」

そう言うと、青信号の点滅している横断歩道にすばやく飛び出し、少年は駆けていってしまった。

私はそこに立ちつくし、いつまでもクリスマスソングを聴いていた。銀座に、ゆつくりと夜が始まっていた。

# 広がる本の世界



一瞬の風になれ  
佐藤多佳子

高校の陸上部を舞台に繰り広げられる、さわやかな青春小説。



鉄のしぶぎがはねる  
まはら三桃

工業高校1年生の三郷心は、ものづくり研究部で旋盤を回す。



伝統芸能へのいざない

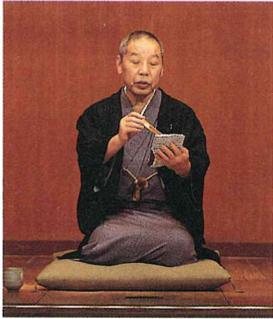
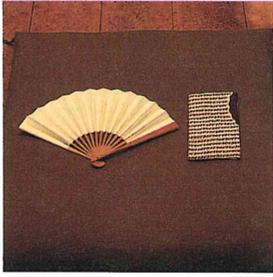
落語

落語は伝統的な話芸の一つです。滑稽な話のほか、人情ばなし、怪談ばなしなどもあります。

落語は、さまざまな場面や人物を設定し、演者が一人で話します。話は「枕」「本文（本題）」「落ち（下げ）」などから構成され、登場人物の会話が主体の、表情やしぐさをともなった芸として展開されます。

扇子と手ぬぐい

落語で用いられる道具は、主に扇子と手ぬぐいです。言葉としぐさにより、さまざまなものに変わります。



扇子は筆に、手ぬぐいは紙になる。(三遊亭窓)



扇子は箸になる。

声に出して落語を楽しもう

次の小ばなしを、話し方や身振りを工夫しながら、演じてみましょう。

「花のお江戸というのは、どういういわれかね。」

「花は賑やか、江戸も賑やか。どちらも盛りだからさ。」

「なるほど、おまえはもの知りだねえ。」

「わからないことがあったら、何でも聞きにおいで。」

「そんなら、お江戸八百八町とは何のことだい。江戸の町は八百や千なんてもんじゃないだろう。」

「あれか。あれはな、江戸中で毎日、八百八丁の豆腐が売れるからよ。お江戸八百八丁ってことよ。」

「町」（町の数）と「丁」（豆腐の数）のしやれを「落ち」

にしています。

15

10

5

# 十二支と月の呼び名

中国では、古くから、方位や年・月・日・時刻を十二の動物と関連させて表した。

## 十二支

- 子(ねずみ) 丑(牛) 寅(虎) 卯(うさぎ) 辰(竜)
- 巳(蛇) 午(馬) 未(羊) 申(猿) 酉(とり)
- 戌(犬) 亥(いのしし)

## 時刻

午前零時を中心、午後十一時から午前一時までを子の刻とし、一日を十二に分け、十二支をあてはめる。昼の十二時を「正午」というのは、これに由来する。



## 方位

北を「子」、南を「午」、東を「卯」、西を「酉」と定めて、その間の北東を「辰(うさぎ)」、南東を「巽(辰巳)」、南西を「坤(未申)」、北西を「乾(戌亥)」といった。



## 月の呼び名

月の呼び名には、古くから用いられている「異名」がある。

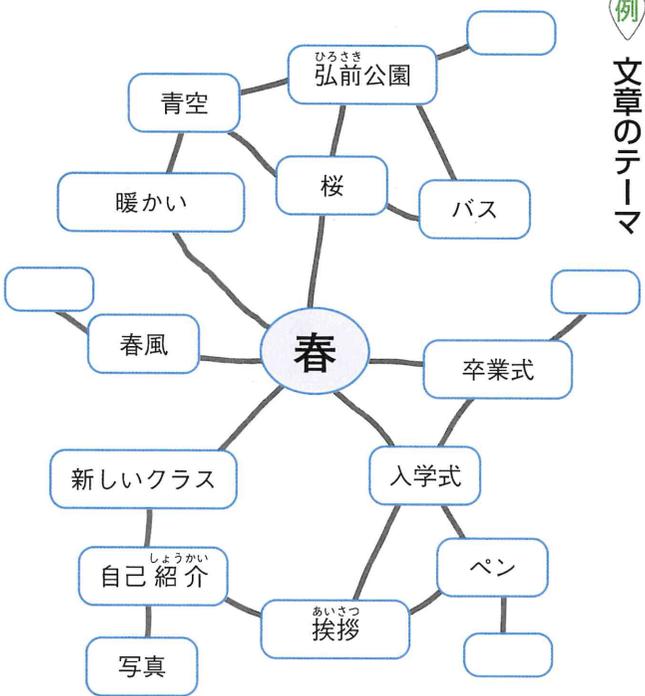
季節	月	異名
春	一月 二月 三月	睦月(むつき) 如月(きさらぎ) 弥生(やよひ)
夏	四月 五月 六月	卯月(うづき) 皐月(さつき) 水無月(みなづき)
秋	七月 八月 九月	文月(ふづき、ふみづき) 葉月(はづき) 長月(ながつき)
冬	十月 十一月 十二月	神無月(かんなづき、かみなづき) 霜月(しもつき) 師走(しわす、しはす)

# アイデアの出し方

## マッピングの仕方

発想を広げるための方法。キーワードから連想される言葉を線で結びながら、言葉をつないでいく方法。ウェビングともいう。

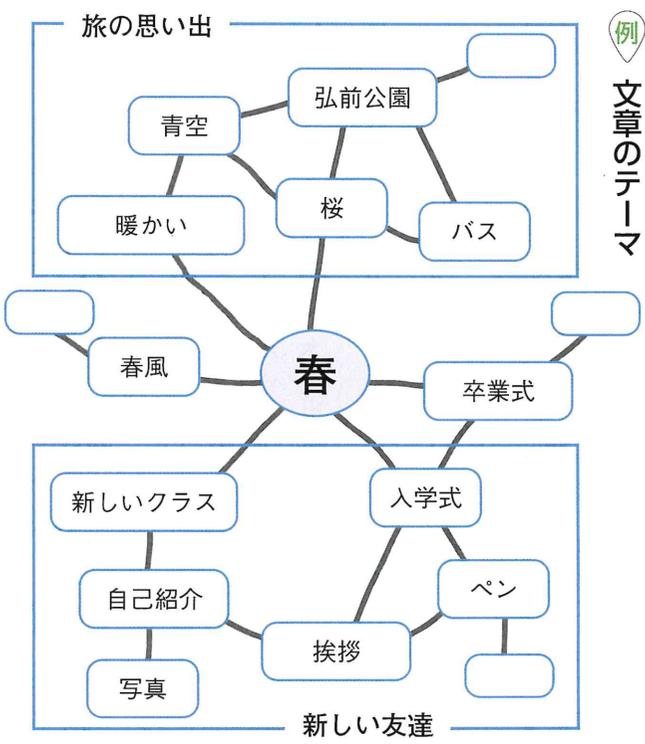
例 文章のテーマ



## マッピングの整理

マッピングができたなら、関係する言葉を囲んで、まとまりごとに見出しをつけると、考えを整理することができる。

例 文章のテーマ



# 原稿用紙の使い方と推敲

## 原稿用紙の使い方

原稿用紙の使い方には明確なきまりはない。ここでは、一般的な使い方について下段に示す。

## 推敲の仕方

文章に磨きをかけ、よりよいものにするを「推敲」という。次に示す観点を参考にして、推敲しよう。

- ・誤字や脱字はないか。言葉づかいは適切か。
- ・漢字の送り仮名や仮名遣いは正しいか。
- ・文体（常体・敬体）は統一されているか。
- ・句読点やかっこなどの符号の使い方は適切か。
- ・主語と述語の対応など、文法に誤りはないか。
- ・長すぎる文はないか。段落の設け方は適切か。
- ・題名と内容が合っているか。

5 縦書きの場合は、原則として漢数字を使う。

3 本文は3行めから、1字分あけて書き出す。

1 1行15字分あける。

2 名前は2行めから書く。

4 どうしても野球をやりたくて、私は、野球部に入部した。しかし、能力的に限界を感じ、野球をいつしかやめたいと思うようになってしまった。この本に出会ったのは、その頃である。

「君は、13歳の今をどう生きるのか？」 同年の天才ピッチャー、原田巧の投げるボールが、問いとなってわたしの心に届く。

出口を探しもどめていたわたしは、巧と何度もキャッチボールをしながら、この問いについて考え続けた。

何があっても「自分自身」をつらぬき通そう

6 内容の変わりめで行を変え、新しく段落をおこす。段落の初めは1字分あける。

4 行の先頭に( ) ( ) ( ) がくるときは、前行の最後のマスに入れる。

◎ 校正記号の例

順序を入れ替える。

字句などを書き加える。

字句や記号を修正する。

改行する。

文を続ける。

文字を下げる。

文字を取って詰める。

話すこと・聞くこと / 書くこと

○ 考え方の方法を、自分の表現に生かす  
さまざま方法で、情報を集めたり整理したりして、自分の考えを深めよう。

### 段落の構成 (P 45)

#### 段落の構成を考へる方法

② いちばん伝えたい内容を短冊を決める。 ① 書きたい内容を一つずつ短冊に書く。

好きなサッカー選手 → 将来の夢 → 入りたい部活動 → サッカーの歴史

③ 相手に伝わりやすくなるための順番を考へる。

### 構成を考へる (P 51)

#### 構成を考へる方法

① 伝えたい中心の内容を決める。  
一生懸命努力しているナツさんを、尊敬する。必ず報われると思う。

② 中心の内容を説明するエピソードを決める。  
ナツさんは大会で初戦敗退したが、休みの日に自主練習をしている。

③ 伝えたい内容に関連づけるにふさわしい名言を選ぶ。  
常によい目的を見失わずに努力を続ける限り、最後には必ず報われる。(ゲーテ)

連まざる者は必ず道かす、道かざる者は必ず進む。(福沢諭吉)

- 1年
- 構成を考へる
  - 予想する
  - 考えをまとめる
  - 段落の構成
  - 材料の整理
  - 根拠と主張
  - 推敲

### 材料の整理 (P 75)

#### 必要な情報を整理する方法

① 想定される送り先(誰)にあげる。

		送り先		
		保護者	地域の かたがた	卒業生
入れる情報	日時・場所	◎	◎	◎
	プログラム	◎	◎	○
	地図	△	◎	×
	スローガン	△	×	△

② 入れる情報(何を) ③ 各情報の送り先にとっての必要性を考へる。

◎: 必ず伝える相手  
○: 優先度が高い  
△: 優先度が低い  
×: 必要ない

### 予想する (P 185)

#### 予想する方法

テーマから予想される話題の例

	テーマ「気候危機と私たちができること」
現状	・気候危機による被害 ・気候危機が起きている地域
背景	・気候危機が起きている原因 ・人類による影響
取り組み	・国や自治体による取り組み ・個人の取り組み

- 2年
- 多面的に捉える
  - 相違点を明確にする
  - さまざまな考えを踏まえる
  - 材料を収集する
  - 構成を明確にする
  - 確かな根拠

### 根拠と主張 (P 103)

#### 根拠を明確にする方法

① 主張を決める。

② 主張の理由を書く。

主張: 体操

理由: 毎日続けられるから

根拠: 平均寿命トップの市が体操教室に力を入れている

③ 理由の根拠となる資料を集める。

### 考えをまとめる (P 229)

#### 考えを整理する方法

① はじめに、テーマとなる内容を置く。

優先さ

② テーマから連想した内容を、「大きなまとまりを示す抽象的なもの」から「具体的なもの」へと分類して整理する。

- 3年
- 構成を工夫する
  - 表現の工夫を評価する
  - 意見を共有する
  - 信頼性を確かめる
  - 説得力を高める
  - 自己PR
  - 情報をまとめる

### 推敲 (P 225)

#### 評価をする方法

Plus	Minus	Interesting
よいところ	さらによくできるところ	おもしろいところ
・伝えたい内容を段落の初めに書いている。 ・複数の資料を用いて説明している。	・事実と意見を分けて書いている。 ・ナンバリングをしたほうがよい。	・他に調べてわかったことがあるか。

見通してみよう。

三年間の言葉の学びを



読むこと

○ 文学的な文章を読む手がかりに、さまざまな文学作品を読むときにも生かそう。

○1年

- 視点／桜蝶
- 語り手／オツベルと象
- 入れ子構造（額縁構造）／少年の日の思い出

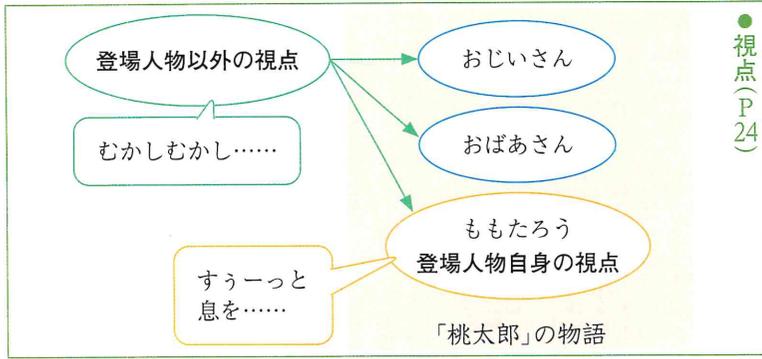
○2年

- 象徴／タオル
- 時間と構成／夏の葬列
- 語り手の位置／走れメロス

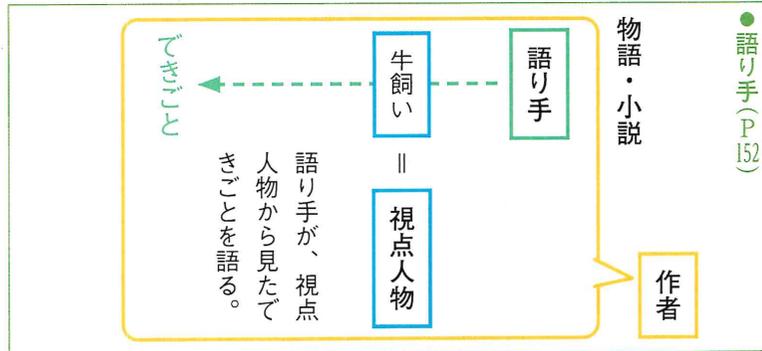
○3年

- 文章の種類／立ってくる春・なぜ物語が必要なのか
- 記号／私
- 「私」という視点／故郷

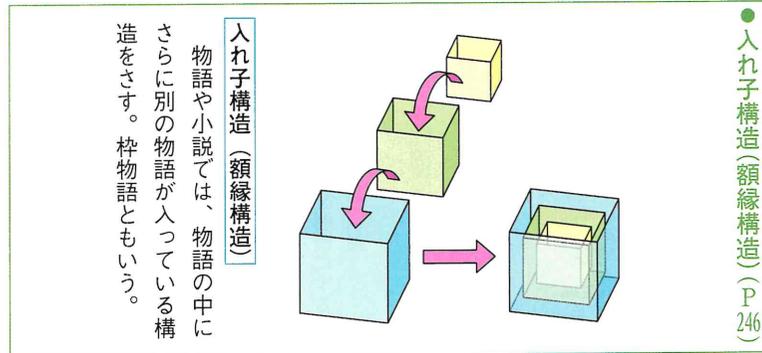
● 視点 (P 24)



● 語り手 (P 152)



● 入れ子構造 (額縁構造) (P 246)



○ 詩

- オノマトペ (擬声語・擬態語) / 河童と蛙
- 比喩・象徴 / 虹の足
- 想像・イメージ / 豚
- 文体 / 初恋

● オノマトペ (擬声語・擬態語) (P 146)

オノマトペ

擬声語

- 【主に音や声を表す】
- ニャーニャー、ワンワン (動物の鳴き声)
- コンコン (たたく音)
- ザーザー (雨が降る音)

擬態語

- 【主に様子や状態、気持ちを表す】
- ぐるぐる (ものが回転する様子)
- かちかち (ものが硬い状態)
- しょんぼり (寂しい気持ち)

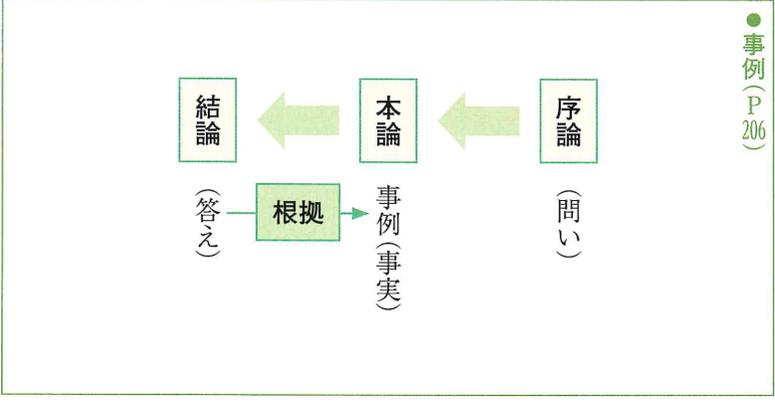
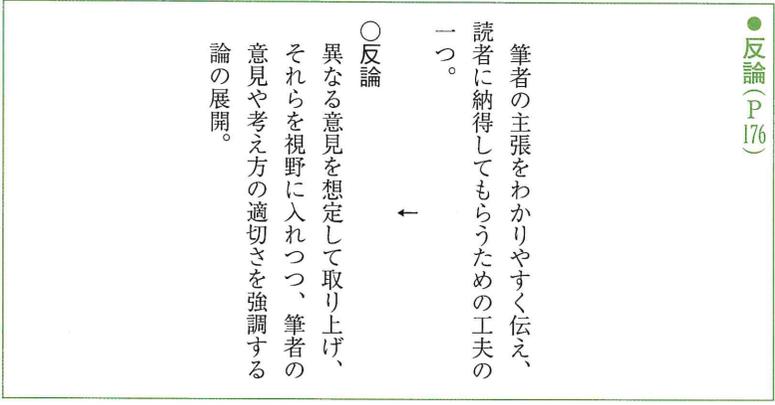
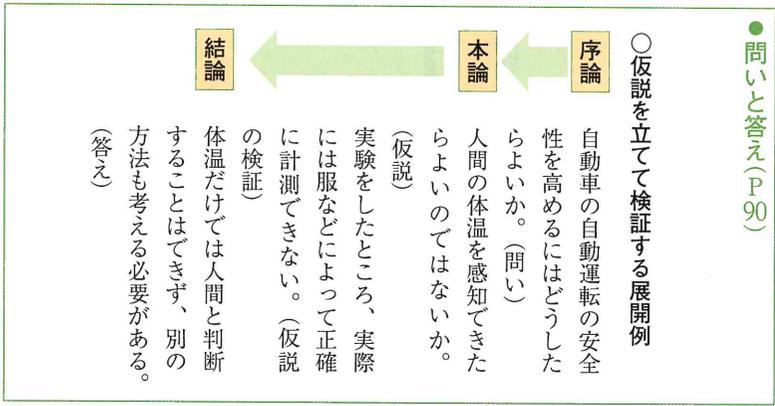
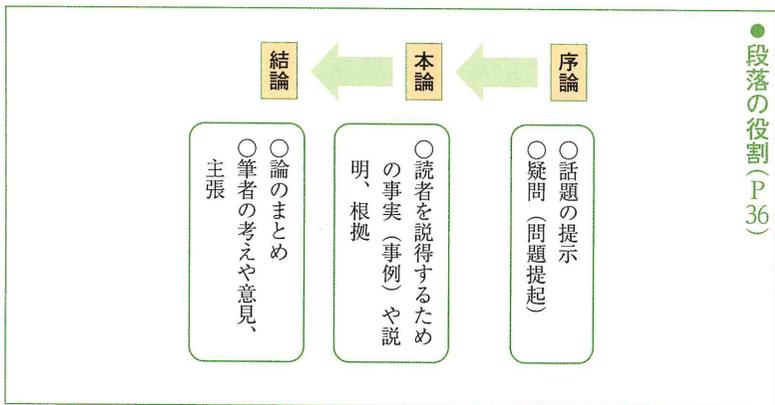
※どちらかに分類できない語もあります。

○説明的な文章を読む手がかりに 説明、記事、報告などの多様な文章を読むときにも生かそう。

○1年  
 段落の役割／自分の脳を知っていますか  
 問いと答え／森には魔法つかいがある  
 反論／子どもの権利  
 事例／言葉がつなぐ世界遺産

○2年  
 読み比べ／日本の花火の楽しみ・水の山 富士山  
 事例と論の展開／紙の建築  
 推論／ガイアの知性  
 筆者との対話／学ぶ力

○3年  
 吟味／AIは哲学できるか  
 主張のよりどころ／async・問いかける言葉





# 理解に役立つ言葉

## 考え方やイメージに関わる言葉

- ・素地
- ・関係
- ・本流
- ・真偽 しんぎ
- ・異変
- ・現象
- ・事柄 ことざら
- ・起源
- ・偶然 ぐうぜん
- ・効力
- ・影響 えいさう
- ・報い むく
- ・理由
- ・根拠 こんきょ
- ・矛盾 むじゆん
- ・同格
- ・相違 さうい
- ・差異
- ・混在
- ・常備
- ・実現
- ・形成 けいせい
- ・消滅 しょうめつ
- ・事態
- ・変異

## 語感に関わる言葉

- ・たわむれる
- ・みずみずしい
- ・もてなす
- ・あつかましい
- ・集う つど
- ・こぼれる
- ・いぶかしい
- ・うるたえる
- ・思いの外
- ・よしんば
- ・ついぞ
- ・せわしない
- ・痛ましい
- ・ともすれば
- ・みやび
- ・埋もれる う
- ・どよめく
- ・気がね じゆんなく
- ・潤沢
- ・つつましい
- ・しおらしい
- ・かぐわしい
- ・はおる
- ・わびしい

このページでは、本や文章で出会う言葉をまとめていますよ。知らない言葉は、国語辞典で調べてみよう。

このページに出ている言葉を手がかりに、自分の言葉の世界をさらに広げていこう。類語辞典を使ってみていいね。



### できごとや様子に

### 関わる言葉

- ・ 陰陽 いんよう
- ・ 花鳥風月
- ・ 雪月花 ゆきげつげ
- ・ 夕映え ゆきば
- ・ 明滅 めいめつ
- ・ 閃光 せんこう
- ・ 残照
- ・ 曙光 しやうこう
- ・ 木漏れ日 こもれひ
- ・ 月光
- ・ きらめく
- ・ ちらつく
- ・ 点滅する
- ・ ぼやける
- ・ 透ける す
- ・ 華やぐ はな
- ・ あせる
- ・ くすむ
- ・ 青ざめる
- ・ きしむ

### 行為こういに関わる言葉

- ・ 任務
- ・ 責任
- ・ 役割
- ・ 手分け
- ・ 落ち着く あま
- ・ 甘んじる あま
- ・ 途方とほうにくれる
- ・ 苦悩する
- ・ 心酔する しんすい
- ・ とぼける
- ・ いばる
- ・ 眉まゆをひそめる
- ・ ほほえむ
- ・ ほくそ笑む え
- ・ 声を上げる
- ・ 打ち込む こ
- ・ 夢中になる
- ・ 精進する しやうじん
- ・ 勇み立つ
- ・ 尽くす
- ・ 骨を折る
- ・ こらえる
- ・ みえを張る
- ・ たしなむ

### 心情に関わる言葉

- ・ うれしい
- ・ 楽しい
- ・ すばらしい
- ・ 寂しい さび
- ・ 恐ろしい おそ
- ・ 腹立たしい
- ・ いまいましたい
- ・ 悔しい くや
- ・ 名残惜しい なごりお
- ・ もどかしい
- ・ 悲しい
- ・ 憎らしい にく
- ・ いとしい
- ・ 朗らか ほが
- ・ 喜ばしい
- ・ 心強い
- ・ 頼たのもしい
- ・ 心細い
- ・ 心もとない
- ・ 重苦しい
- ・ うきうき
- ・ わくわく
- ・ ほくほく
- ・ そわそわ
- ・ いそいそ
- ・ びくびく



# 表現に役立つ言葉

## 意見を述べる活動 ↓ P 185 へ

- ……という観点から考えると…… **考** 課題を設定する
  - ……だとすれば、……と考えられます **考** 推論する
  - ……ということから……といえます **考** 定義する
  - まとめると、……ということになります **考** 総括する
  - ……という順序で考えると **考** 順序つける
  - しかし……ということが考えられます **考** 予想する
- 議論や討論をする活動** ↓ P 229 へ
- ……については調べましたか **考** 解決を見通す
  - もちろん……だと思えますが…… **考** 予想する
  - ……(という) 場合にもいえますか **考** 一般化する
  - ……と比べると、…… **考** 比較する
  - そのことは……にもあてはまりますか **考** 一般化する
  - ……に賛成(反対)の立場ならば…… **考** 推論する
  - ……に共通点はありますか **考** 共通点を見つける

15

10

5

## 質問や評価をする活動 ↓ P 51 へ

- ……というのはなぜですか **考** 課題を提示する
- ……のほかに意見はありますか **考** 多角的に考える
- ……が違う場合はどうですか **考** 比較する
- ……に何か問題はありますか **考** 評価する
- ……と考える前提はなんですか **考** 検証する
- ……をどのように直せばよくなりますか **考** 改善する
- ……をまとめるとどうなりますか **考** 総括する

友達と話し合ったり、自分の伝えたいことを書いたりするときに、このページを活用しよう！



伝えたいことを整理して書く活動 ↓ P 45・225 へ

- まず……／初めに…… **考** 順序つける
- 一つめは……、二つめは…… **考** 順序つける
- ここでは……について明らかにします **考** 課題を設定する
- ……から……のように整理できます **考** 特徴とくちょうを見つける
- まだわかっていないことは……です **考** 課題を提示する
- ……については課題が残っています **考** 評価する
- ……によると、……ということですよ **考** 課題を提示する
- ……ですか（でしたか） **考** 定義する
- ……さしあげます
- ……ではありませんか
- ……と申します（申しあげます）
- ……ごさいます（ました）
- ……でしょうか

相手や場に考慮こうりょして書く活動 ↓ P 75 へ

- ……と関連することは…… **考** 関係づける
- 例えば…… **考** 事例をあげる
- このことから……ということがいえます **考** 定義する
- なぜなら……（だ）からです **考** 理由をあげる
- ……のように考えれば、……といえるはずですよ **考** 推論する
- よって……が必要なのです **考** 解決を見通す
- ……と比べると、……がわかります **考** 比較する

**考** は、考えるときの観点として生かそう！ 使い方の例は、「まなびリンク」を見てね。



# 話すこと・書くことテーマ例集

## 自分を見つめて

・感動したのはどんな名曲か(紹介)

・おすすめのものは何か(紹介)

例 一冊の本、リフレッシュの方法

・心を明るく温かくする言葉(提案)

・便利な学校施設地図とは(案内)

・プラスチックごみの減らし方(報告)

・食品ロスの減らし方(意見)

例 こんな○○があるといい(随筆)

・未来の道具、治療薬

## 人とのつながりを求めて

・小学生に知らせたい○○は?(紹介)

例 中学校生活、部活動、勉強法

・運動会に地域のかたを招く案内状

(案内)

・挨拶の効果(随筆)

## 人の心の中を見つめて

・いじめや暴力はどんな心が生むのか

(意見)

・手話で会話するとわかること(感想)

・係活動にすすんで取り組むには(意見)

・学校のルールをどう見直すか(意見)

## これからの社会に目を向けて

・地域の防災点検(報告)

・地域の点字ブロック点検(報告)

・どんな食生活を送っているか(報告)

・地域の伝統料理(報告)

・使い方が変化してきた言葉(報告)

か(意見)

・聞き慣れない日本語はどこが気になるか(意見)

## 周囲を見回すと

・外国人向けの観光マップにはどんなこ

とが必要か(案内)

## 日常の社会や文化に目を向けて

・好きな音楽や絵画、映画のどんなところが気に入っているか(鑑賞)

・世界で活躍する日本人、どんな人がいるか(報告)

・世界の挨拶言葉(報告)

・世界で活躍する日本人、どんな人がいるか(報告)

話したり書いたりするときの参考にしてよう。



# 学習に必要な用語(索引)

国語の学習をするときに必要な用語をまとめ、その初出ページや解説のあるページを示しました。三年間で学ぶ大切な言葉です。見通しをもって学習しましょう。また、適宜、関連するページに戻って確認しましょう。

語句	学年/ページ
ア	音便形 ① 297
アクセント	音読み ② 188
後書き	力 ② 92
案内文	会意文字 ② 92
イ音便	楷書 ① 271
意見文	外来語 ③ 273
異字同訓	返り点 ① 132
一・二点	係り結び ② 133
ㄥ点	書き下し文 ① 132
イメージ	書き言葉 ② 282
入れ子構造(額縁構造)	力行変格活用 ② 296
いろは歌	格助詞 ② 301
韻	画数 ① 72
インターネット	掛詞 ③ 135
イントネーション	仮借 ② 92
隠喩法	仮説 ① 91
引用	課題 ② 63
韻を踏む	語り手 ① 152
ウエビング	活字 ③ 72
絵コンテ	活用形 ① 287
SNS	活用形 ② 295
押韻	活用語尾 ② 295
置き字	活用のある自立語 ① 288
奥付	活用のある付属語 ① 289
送り仮名	活用のない自立語 ① 287
オノマトベ	活用のない付属語 ① 288
音訓索引	活用表 ② 295
音節	仮定形 ② 295
音読	可能動詞 ② 298
音便	上一段活用 ② 296
漢音	漢語 ③ 272
漢語	漢字仮名交じり文 ③ 270
敬体	敬体 ③ 177
敬語	形容動詞 ① 288
訓読み	結論 ① 36
訓読み	原稿用紙 ① 314
形式名詞	言語コミュニケーション ② 238
形式文字	検証 ③ 83
形声文字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢語	廣告 ① 106
漢字仮名交じり文	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	五言絶句 ③ 141
漢字	五言律詩 ③ 141
漢字	故事成語 ① 128
漢字	五七調 ③ 135
漢字	語種 ③ 272
漢字	五十音図 ③ 266
漢字	五段活用 ② 296
漢字	ことわざ ③ 280
漢字	コミュニケーション ① 31
漢字	固有名詞 ② 290
漢字	根拠 ① 103
漢字	敬体 ③ 177
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	形容動詞 ① 288
漢字	結論 ① 36
漢字	原稿用紙 ① 314
漢字	言語コミュニケーション ② 238
漢字	検証 ③ 83
漢字	謙讓語 ② 279
漢字	合意形成 ③ 237
漢字	廣告 ① 106
漢字	口語自由詩 ③ 176
漢字	口語体 ③ 176
漢字	構成 ③ 36
漢字	呼応の副詞 ② 70
漢字	呉音 ② 291
漢字	語幹 ② 295
漢字	国語辞典 ② 306
漢字	国字 ① 188
漢字	



18 38 癬 ヘキ 潔癖 習癖 患 くせ 口癖 難癖 な くて七癖 13 疔 疥 瘡 癩 癬	7 38 妙 ミヨウ 絶妙 妙技 軽妙 微妙 4 女 4 女 4 女 妙 妙	9 33 孤 コ 孤立 孤高 孤島 自分の脳を知っていますか 9 子 6 了 了 了 孤 孤 孤	10 33 振 シン 振動 三振 ふる ふるう ふれる 振り子 振り向く 針が振れる 7 手 7 一 打 打 振 振	8 33 齊 セイ 一斉 斉唱 均 斉 8 齊 0 一 ナ 文 齊 齊	漢字の練習 1
13 48 違 イ 違法 違反 相違 ちがう ちがえる 考 え違い 読み違える 10 査 査 違	4 42 互 ゴ 相互 交互 五角 たがひ 互いに喜び合 う 4 一 2 一 互 互	10 41 陥 カン 欠陥 陥没 おちいる ジレンマに 陥る 10 陥 陥 陥 陥 陥	7 40 抜 バツ 選抜 抜本的 ぬく ぬける ぬかす ぬかる 栓抜き 抜 け道 7 手 4 一 一 一 一 抜 抜	13 40 較 カク 比較 比較的 6 車 6 目 車 較 較	カク 比較 比較的
18 48 顎 ガク 顎関節 あご 顎を出す 9 一 一 一 顎 顎	4 48 刈 カ 草刈り 刈り入 れ 刈り取る 稲刈 り 4 刀 2 ノ メ 刈 刈	6 48 朴 ボク 素朴 純朴 6 木 2 一 一 一 一 朴 朴	10 48 悟 ゴ 覚悟 悔悟 悟性 さとる 悟りをひらく 10 心 7 一 一 一 一 悟 悟	8 48 侮 ブ 侮辱 侮蔑 あなどる 8 人 6 イ イ 侮 侮	ブ 侮辱 侮蔑 あなどる
9 48 怨 オン 怨念 エン 5 心 5 ク 知 知 怨 怨	11 48 盗 トウ 盗難 強盗 盗 品 盗作 盗塁 ぬすむ 盗み聞き 11 皿 6 一 一 一 一 盗 盗	6 48 充 ジュウ 充実 充電 補充 充血 充滿 あててる 6 儿 4 一 一 一 一 充 充	8 48 茂 モ 繁茂 しげる 草木が茂る 8 艹 5 一 一 一 一 茂 茂	11 48 窒 チツ 窒息 窒素 6 穴 6 一 一 一 一 窒 窒	チツ 窒息 窒素
5 48 囚 シユウ 囚人 模範囚 5 口 2 一 一 一 一 囚 囚	10 48 扇 セン 扇子 扇動 扇 風機 扇状地 おうぎ 舞扇 扇形 10 戸 6 一 一 一 一 扇 扇	13 48 痴 チ 愚痴 8 一 一 一 一 痴 痴	9 48 厘 リン 九分九厘の確率 7 一 一 一 一 厘 厘	10 48 泰 タイ 安泰 天下泰平 泰然自若 5 水 5 一 一 一 一 泰 泰	タイ 安泰 天下泰平 泰然自若
13 49 睡 スイ 睡眠 熟睡 午 睡 一睡 8 目 8 一 一 一 一 睡 睡	10 49 娠 シン 妊娠 7 女 4 一 一 一 一 娠 娠	7 49 妊 ニン 妊娠 懐妊 妊 婦 7 女 4 一 一 一 一 妊 妊	12 49 湾 ワン 湾岸 港湾 湾 曲 湾内 9 水 9 一 一 一 一 湾 湾	10 49 恣* シ 恣意的 6 心 6 一 一 一 一 恣 恣	シ 恣意的

**一年生で学習した漢字**  
 (三九六字)

▼以下はそれぞれ、次の内容を表します。(例「陥」)  
 41は、新出したページ数。／カン 欠陥 陥没／おちいる ジレンマに陥るは、読みと  
 用例。／青字は、中学校で学ばない読み。／10 陥 7 は、総画数・部首・部首を除いた画  
 数。／陥 陥 陥 陥 陥 は一般的な筆順。ただし、画数や部首、筆順は、辞書によって異な  
 る場合があります。\*は複数の字体が通用している漢字です。

12 49 廣 9 廣 9 廣 廣 廣 廣 廣	12 49 廣 9 廣 9 廣 廣 廣 廣 廣	9 49 廣 4 一 廣 廣 廣 廣 廣 廣	8 49 几 6 カ ワ 内 内 内 免	13 49 頁 4 ニ 一 元 頑 頑 頑 頑	14 49 シ 11 キ 音 音 章 章 章 彰	13 49 シ 10 一 一 一 一 一 寢	10 49 目 5 目 目 目 目 目 眠
49 廣 9 廣 9 廣 廣 廣 廣 廣	49 廣 9 廣 9 廣 廣 廣 廣 廣	49 廣 4 一 廣 廣 廣 廣 廣 廣	49 几 6 カ ワ 内 内 内 免	49 頁 4 ニ 一 元 頑 頑 頑 頑	49 シ 11 キ 音 音 章 章 章 彰	49 シ 10 一 一 一 一 一 寢	49 目 5 目 目 目 目 眠
9 56 目 6 一 一 一 一 一 郊	14 56 心 11 ハ ハ ハ ハ ハ 慢	14 56 人 12 一 一 一 一 一 僕	15 49 父 11 目 目 目 目 目 敷	19 49 四 14 一 一 一 一 一 羅	10 49 口 8 二 一 一 一 一 匿	13 49 木 9 一 一 一 一 一 棄	9 56 目 6 一 一 一 一 一 郊
9 56 目 6 一 一 一 一 一 郊	14 56 心 11 ハ ハ ハ ハ ハ 慢	14 56 人 12 一 一 一 一 一 僕	15 49 父 11 目 目 目 目 目 敷	19 49 四 14 一 一 一 一 一 羅	10 49 口 8 二 一 一 一 一 匿	13 49 木 9 一 一 一 一 一 棄	9 56 目 6 一 一 一 一 一 郊
11 57 目 6 目 目 目 目 眺	11 57 衣 5 一 一 一 一 一 袋	14 57 糸 8 糸 糸 糸 糸 糸 網	8 57 イ 5 イ イ イ イ イ 彼	8 56 穴 3 一 一 一 一 一 突	4 56 爪 0 一 一 一 一 一 爪	4 56 勺 2 一 一 一 一 一 勺	11 57 目 6 目 目 目 目 眺
11 57 目 6 目 目 目 目 眺	11 57 衣 5 一 一 一 一 一 袋	14 57 糸 8 糸 糸 糸 糸 糸 網	8 57 イ 5 イ イ イ イ イ 彼	8 56 穴 3 一 一 一 一 一 突	4 56 爪 0 一 一 一 一 一 爪	4 56 勺 2 一 一 一 一 一 勺	11 57 目 6 目 目 目 目 眺
9 58 手 6 一 一 一 一 一 撈	10 58 手 7 一 一 一 一 一 挨	5 57 玄 0 一 一 一 一 一 玄	12 57 手 9 一 一 一 一 一 換	17 57 金 9 一 一 一 一 一 鍋	13 57 禾 8 一 一 一 一 一 稚	12 57 衣 6 一 一 一 一 一 裂	9 58 手 6 一 一 一 一 一 撈
9 58 手 6 一 一 一 一 一 撈	10 58 手 7 一 一 一 一 一 挨	5 57 玄 0 一 一 一 一 一 玄	12 57 手 9 一 一 一 一 一 換	17 57 金 9 一 一 一 一 一 鍋	13 57 禾 8 一 一 一 一 一 稚	12 57 衣 6 一 一 一 一 一 裂	9 58 手 6 一 一 一 一 一 撈
10 60 心 6 一 一 一 一 一 恐	13 60 車 6 一 一 一 一 一 載	15 60 肉 11 一 一 一 一 一 膝	13 59 肉 9 一 一 一 一 一 腰	10 59 心 6 一 一 一 一 一 恥	8 58 手 5 一 一 一 一 一 押	15 58 黒 4 一 一 一 一 一 黙	10 60 心 6 一 一 一 一 一 恐
10 60 心 6 一 一 一 一 一 恐	13 60 車 6 一 一 一 一 一 載	15 60 肉 11 一 一 一 一 一 膝	13 59 肉 9 一 一 一 一 一 腰	10 59 心 6 一 一 一 一 一 恥	8 58 手 5 一 一 一 一 一 押	15 58 黒 4 一 一 一 一 一 黙	10 60 心 6 一 一 一 一 一 恐
11 73 目 8 一 一 一 一 一 陵	11 73 目 8 一 一 一 一 一 逮	7 73 手 4 一 一 一 一 一 抑	10 72 糸 4 一 一 一 一 一 索	5 62 口 2 一 一 一 一 一 叱	13 61 日 9 一 一 一 一 一 暇	10 60 人 8 一 一 一 一 一 倒	11 73 目 8 一 一 一 一 一 陵
11 73 目 8 一 一 一 一 一 陵	11 73 目 8 一 一 一 一 一 逮	7 73 手 4 一 一 一 一 一 抑	10 72 糸 4 一 一 一 一 一 索	5 62 口 2 一 一 一 一 一 叱	13 61 日 9 一 一 一 一 一 暇	10 60 人 8 一 一 一 一 一 倒	11 73 目 8 一 一 一 一 一 陵

11 73 亀 0 カメ 亀裂 亀甲 かめ 亀を飼う	11 73 崖 8 ガイ 断崖 がけ 崖つがち	10 73 畜 田 チク 家畜 畜産 畜牧	13 73 詣 言 ケイ 初詣 もつてる 寺に詣てる	11 73 狛 8 リョウ 狩獵 獵師 禁獵 獵犬 獵場	9 73 狩 6 シユ 狩獵 かる かり 獸を狩る 獵り 潮干狩り	13 73 隙 隙間 すき 隙
18 73 藤 15 トウ 葛藤 ふじ 藤色	12 73 葛* 9 カツ 葛根湯 葛藤 くず	8 73 卓 6 タク 卓球 食卓 教卓	11 73 瓶 瓦 ビン 花瓶 薬瓶 土瓶 小瓶	7 73 忌 心 イイ 避 忌引 一周忌 忌	11 73 掃 手 ソウ 掃除 清掃 走 者一掃 はく 掃き出す	12 73 廊 廊下 画廊 廊
15 III 輩 車 ハイ 先輩 後輩 同輩 輩出 輩	16 99 壊 土 カイ 破壊 決壊 壊滅 こわす こわれる 建物を壊す 機械が壊れる 壊れ物	11 97 粒 米 リユウ 微粒子 粒々 つぶ 一粒 辛苦 粒 豆粒 砂粒 大粒 小粒	8 95 泥 水 デイ 泥水 どろ 泥沼 泥だらけ	6 92 江 水 エ 長江 入江 コウ 江上 揚子江	21 92 魔 鬼 マ 悪魔 魔法 魔術 森には魔法つかいがある 魔物	10 73 浜 水 ヒン 海浜 京浜地区 はま 砂浜 浜辺
20 III 響 音 キョウ 影響 音響 ひびく 交響楽 鳴り響く 遠くまで響く	8 III 虎 虎 トラ 虎の威を借る	11 III 庶 庶民 庶務課 シヨ	17 III 謎* 言 ナゾ 宇宙の謎	14 III 漫 水 マン 漫画 漫才 漫然 漫	7 III 伴 人 ハン 同伴 伴走 伴奏 ともなう 妹を伴う	12 III 棚 木 タナ 本棚 戸棚 大
12 III 慌 心 コウ あわてる あわただし 慌てて出発する 慌ただしく準備する	12 III 握 手 アク 握手 握力 にぎる 手を握る 握りしめる	6 III 叫 口 キョウ 絶叫 阿鼻叫 さけぶ 叫ぶ声	13 III 酬 酉 シユウ 応酬 報酬	15 III 穂 禾 スイ 稲穂 穂先 穂波	12 III 普 日 フ 普通 普及 普遍 的	12 III 扉 戸 ヒ とびら 自動扉 門の扉
7 120 迎 心 ゲイ 歓迎 迎春 むかえる 出迎え 送り迎え	15 119 誰 言 タレ 君は誰だ	10 119 竜 竜 リユウ 恐竜 竜神 頭蛇尾 竜宮城 竜	11 119 婚 女 コン 結婚 婚約 婚礼 新婚旅行	11 118 頃 頁 ころ 頃合い 平成の頃	10 118 姫 女 ヒメ 姫君 歌姫 ぐや姫 お姫様	11 III 釈 采 シヤク 解釈 釈明 釈放 注釈

8 130 苗 なえ 苗木 苗床 (なわ) 苗代 ヒヨウ	7 129 尾 お 尾根 尾びれ ヒ 語尾 首尾 接尾 語 竜頭蛇尾 徹頭	15 129 鋭 金7々々金 鋭 鋭利 鋭角 鋭 エイ 鋭利 鋭角 鋭 敏感 すどい 刃先が鋭い	9 128 盾 ジュン 矛盾 たて 後ろ盾	5 128 矛 ム 矛盾 ほこ 矛先を向ける 矛を収める	12 122 渡 ト 渡航 渡来 渡河 譲渡 わたる わたす 渡り 鳥 渡し舟	9 122 胆 タン 落胆 大胆 魂 胆 胆汁 胆汁
10 134 透 トウ 透明 透視 すく すかす すける 透けて見える	12 134 晶 シヨウ 水晶 結晶	14 134 獄 ゴク 地獄 監獄 獄 舎 疑獄事件 脱獄 14才11才 狩猟 獄 獄	18 134 覆 フク 覆面 転覆 おおう 目を覆う くつがえす くつがえる	9 134 咲 さく 咲き乱れる 返 分咲き 早咲き 七	9 130 枯 コ 枯濁 枯淡 栄枯 かれる からす 枯れ 木 草花を枯らす	10 130 疲 ヒ 疲勞 疲弊 つかれる 気疲れ
7 136 沈 チン 沈黙 沈下 消 沈 沈着 冷静 しずむ しずめる 日 が沈む 水に沈める	10 136 浮 フ 浮上 浮力 浮沈 浮遊物 浮動 うくうかれる うか ぶ うかべる 浮か ない顔 浮かれたや つ 水に浮かぶ 思 い浮かべる	15 135 踏 トウ 雑踏 人跡未踏 舞踏 踏破 ふむ ふまえる 足踏 み	14 135 端 タン 端的 極端 はし 片端 切れ端 はた 道端	4 135 匹 ヒツ 匹敵 ひき 一匹	14 134 緒 シヨ 由緒 緒 緒 緒 緒 緒 お 鼻緒 へその緒 (子ヨ) 情緒	7 138 肝 カン 肝腎 肝臟 きも 肝を冷やす 肝 に銘じる
12 137 堪 カン たえる 鑑賞に堪えら れない作品 任に堪 える	22 137 驚 キョウ 驚異 驚嘆 おどろく おどろかす 物音に驚く 人を驚 かす	14 137 隠 イン 隠居 隠匿 かくす かくれる 姿 を隠す 月が隠れる	10 137 途 ト 途中 前途 用途 発展途上 帰途	20 136 懸 ケン 懸命 懸賞 かける かかる 賞金 が懸かる	17 136 闇 ヤミ 闇夜 暗闇	4 144 屯 トン 駐屯 屯田
4 144 升 シヨウ 一升 ます 升目	18 144 韓 カン 大韓民国 18章8才 草鞋 韓 韓	13 139 頓 トン 頓挫 頓着	14 139 罰 バツ 罰金 罰則 天 罰 処罰 賞罰 バチ 罰があたる	13 139 慈 ジ 慈悲 慈雨 慈愛 慈母 慈善事業 いづくし	13 138 腎 ジン 腎臟	3 144 与 ヨ 授与 貸与 寄与 関与 給与 与党 あたえる 貸し与える
2 144 又 また A又はB	14 144 貌 ボウ 全貌 容貌	9 144 甚 シン 甚だ 甚だしい 解も甚だし はなはだ はなはだし 甚だ迷惑だ 誤	7 144 亜 ア 亜鉛 亜熱帯 亜 流	11 144 猫 ネコ 子猫 山猫 猫 に小判 飼猫 ヒヨウ	5 144 井 ドン 井 井飯 井勘定 (どん) 牛井 天井	

14 足 踊 148 踊 ヨウ 日本舞踊 おどる おどりを踊る 盆踊り 踊り上がる	10 手 捉 144 捉 ソク 捕捉 とらえる 意味を捉える	12 火 焦 144 焦 シヨウ 焦点 焦土 焦熱地獄 焦燥感 こげる こがす こがれる 黒焦げ 焦げ 目身を焦がす 思い焦がれる あせる	11 斎 144 斎 サイ 書斎 斎場 精進斎 斎宮	3 凡 144 凡 ボン 平凡 非凡 凡人 凡打 (ハン)	15 雨 144 霊 レイ 亡霊 霊長類 靈魂 幽霊 たま リヨウ	
8 女 姓 154 姓 セイ 姓名 旧姓 同姓同名 シヨウ 百姓	11 手 据 154 据 すゐる すわる 据えつける 腰が据わる	14 禾 稻 154 稻 トウ 水稻 陸稻 いね 稻刈り (いな) 稲作 稲穂 稲妻	8 水 泡 150 泡 ホウ 水泡に帰す 気泡 発泡 あわ 泡たつ 泡をく	10 口 唄 150 唄 ウタ 長唄 小唄	8 水 沸 149 沸 フツ 沸騰 沸点 わく わかす 沸き上がる 湯を沸かす	8 水 沼 149 沼 ヌマ 沼地 泥沼 シヨウ
3 巾 155 巾 キン 巾着 頭巾 雑巾	3 一 丈 155 丈 ジョウ 頑丈 気丈な人 方丈 丈夫 丈身 背丈	7 口 吹 155 吹 スイ 吹奏楽 ふくく 口笛を吹く 吹き消す	16 薄 155 薄 ハク 薄情 軽薄 希薄 薄暗い うすい うすめる うすまる うすらぐ うすれる 薄暗い 薄着 薄明かり 薄手 味を薄める 薄憶が薄れる 記	13 火 煙 155 煙 エン 煙突 禁煙 発煙 煙幕 けむる けむい 雨に煙る木々 けむり 砂煙 湯煙	13 水 漠 155 漠 バク 砂漠 漠然 広漠	
11 斗 斜 158 斜 シャ 斜面 斜線 傾斜 斜陽 ななめ 斜めに傾く	9 女 威 157 威 イ 威力 権威 威厳 威圧 威風堂々	8 戸 屈 156 屈 クツ 退屈 卑屈 屈強 理屈 不屈 屈指 屈折 窮屈 屈伸運動	12 大 奥 156 奥 オウ 奥底 奥歯 奥行き	6 心 忙 156 忙 ボウ 多忙 忙殺 忙期 いそがしい 仕事很忙 しい	9 白 皆 156 皆 ショウ 起床 病床 温床 臨床実験 とこ 床の間 床屋 ゆか 床下	
5 入 込 160 込 コム こめる 吹き込む 乗り込む 申し込む	15 戸 履 159 履 リ 履行 履修 履歴 履書 はく 上履き 履物	13 革 靴 159 靴 クツ 靴下 長靴 革靴 カ 靴	18 金 鎖 159 鎖 サ 連鎖 封鎖 鎖金 閉鎖 鎖国 くさり 鉄の鎖	12 人 偉 159 偉 イ 偉大 偉人 偉業 えらい 偉い人になりたい	15 禾 稼 159 稼 カ かせぐ 利益を稼ぐ 時間稼ぎ	
12 山 嵐 164 嵐 アラシ 砂嵐	13 石 碁 163 碁 ゴ 囲碁 碁石 碁盤	6 人 仰 162 仰 ギョウ 仰角 仰天 (ゴウ) 信仰 あおぐ 仰向け 仰ぎ 見上げる おおいせ	16 心 薪 160 薪 シン 薪炭 臥薪嘗胆 たきぎ 薪小屋	12 心 愉 160 愉 ユ 愉快 愉悦	7 手 把 160 把 ハ 把握 十把ひとか らげ	
					4 牙 158 牙 ガ 象牙 きば 獣が牙を見せる	
					8 木 杯 160 杯 ハイ 一杯 祝杯 乾杯 さかずき 金の杯 杯 苦杯をなめる	

12日 167 替 タイ 交替 代替 かゝる かわる 着替 える 替え歌 年度 替わり 替わり 替替	18馬 166 騷 ソウ 騷動 騷乱 騷 音 騷然 物騷 さわぐ 大騷ぎ	21足 166 躍 ヤク 活躍 躍進 躍 動 飛躍 跳躍 おどる 胸が躍る	11水 166 添 テン 添付書類 添削 添加物 そゝる 添付 い 寄り添う	7力 166 励 レイ 激励 励行 奨励 はげむ はげます 仕 事に励む 励まし合 う	16糸 165 縛 バク 捕縛 束縛 しばる きつく縛る	15口 165 噴 フン 噴火 噴水 噴 出 噴射 ふく 噴き出す
12糸 174 紫 シ 紫外線 紫紺 むらさき 紫色 赤紫 薄紫	17羽 174 翼 ヨク 両翼 主翼 翼をになう つばき 鳥の翼	10米 174 粹 スイ 純粹 抜粹 いき 粹な服装	18糸 174 繭 マユ 繭玉 繭の糸 蚕の繭	10虫 174 蚊 カ 蚊取り線香 やぶ 蚊	11心 174 悼 トウ 哀悼 追悼 悼 いたも	12疋 168 瘦 ヤセ 痩せ 夏 やせる 痩せ細る
8日 174 昆 コン 昆虫 昆布	9心 174 幽 ユウ 幽霊 幽閉 幽 玄 幽境	21鳥 174 鶴 ツル 鶴のひと声	11疋 174 陶 トウ 陶磁器 陶芸 陶酔 陶工 製陶 薰陶	14虫 174 蜜 ミツ 蜜月 蜜蜂	13虫 174 蜂 ホウ 蜂起 養蜂 はち 蜂の巣 蜂蜜	9心 174 恒 コウ 恒例 恒久平和 恒星 恒温 恒常化
14大 179 奪 ダツ 奪取 争奪 強 奪 奪回 うばう 奪い合う	9疋 179 虐 ギャク 残虐 暴虐 虐待 虐殺 自虐 しいたげる	10手 174 挫 サ 挫折 挫挫	11手 174 捻 ネン 捻挫 捻出	10田 174 畝 ウネ 畝を作る	21雨 174 露 ロ 露出 露骨 吐露 露天 露見 (ロウ) 披露 つゆ 朝露 夜露	8手 174 披 ヒ 披露 披見
10糸 188 紋 モン 指紋 風紋 波 紋 家紋 紋章	14金 188 銘 メイ 感銘 銘柄 銘 記 銘文 真正銘 座右の銘	12巾 188 幅 フク 振幅 全幅の信 頼 幅員 はば 道幅 歩幅 大 幅 幅跳び	11虫 188 蛇 ジャ 蛇口 大蛇 ダ 蛇足 長蛇の列 蛇行 へび 毒蛇	9山 188 峠 トウゲ 峠道	11花 188 菊 キク 野菊 菊畑 菊 人形 白菊 春菊	7口 182 含 ガン 含有 包含 含 蓄 ふくむ 含める 水 分を含む
9皿 189 盆 ボン 盆地 盆栽 盆 ず 踊り 覆水盆に返ら	13金 189 鈴 レイ 予鈴 電鈴 振 リン 風鈴 呼び鈴 すず 鈴虫	13才 189 猿 エン 犬猿の仲 野猿 さる 猿も木から落ち る 子猿	16日 189 曇 ドン 曇天 くもる 曇り空 薄曇	7木 189 杉 スギ 杉林 杉並木	11豚 189 豚 トン 養豚 豚骨 ぶた 豚肉 子豚 豚 に真珠	10肉 188 脇 ワキ 脇腹 脇役

16金 8 𠄎 錠 189 錠 錠前 錠劑 錠糖衣錠	15 𠄎 影 189 影 かげ 人影 影絵 面影	4 𠄎 厄 189 厄 ヤク 厄介 厄災	12 𠄎 隅 189 隅 グウ 一隅 すみ 四隅 片隅	9 日 5 𠄎 味 189 味 マイ 曖昧 三昧	17 日 13 𠄎 曖 189 曖 アイ 曖昧	10 木 6 𠄎 栽 189 栽 サイ 栽培 盆栽
9 𠄎 逃 189 逃 トウ 逃走 逃亡 逃 にげる にがす 敵か ら逃げる 釣った魚 を逃がす のがす のがれる 見 逃す チャンスを逃 す 命からがら逃れ る	8 火 4 𠄎 炎 189 炎 エン 火炎 炎上 肺 炎 炎天下 ほのお ガスの炎	12 手 9 𠄎 揚 189 揚 ヨウ 抑揚 高揚 あげる あがる たこ が揚がる 揚げ足	10 金 2 𠄎 釜 189 釜 かま 釜飯 茶釜	10 刀 8 𠄎 剣 189 剣 ケン 剣道 短剣 刀 剣 剣術 真剣 つるぎ 剣の舞 もろ 刃の剣	12 火 8 𠄎 煮 189 煮 ニル にえる にやす 煮物 雑煮 煮えく り返る 業を煮やす	
9 木 5 𠄎 柔 191 柔 漢字の練習 5 ジユウ 柔順 柔道 柔軟性 優柔不断 ニユウ 柔和 柔弱 やわらか やわらかい 柔らかい 耳たぶ	6 白 0 𠄎 白 189 白 キユウ 脱白 うす 石白	4 斗 0 𠄎 斗 189 斗 ト 一斗 斗酒 北斗 七星	10 田 5 𠄎 畔 189 畔 ハン 湖畔 河畔	10 羽 4 𠄎 翁 189 翁 オウ 老翁	13 水 10 𠄎 滝 189 滝 たき 滝つぼ 滝口	
12 父 8 𠄎 敢 191 敢 カン 勇敢 果敢 敢 闘 敢然	8 木 4 𠄎 析 191 析 セキ 分析 解析 透 析	12 頁 3 𠄎 須 191 須 ス 必須	15 皿 10 𠄎 盤 191 盤 バン 円盤 地盤 基 盤 盤石の構え 文 字盤	13 人 11 𠄎 傑 191 傑 ケツ 傑作 豪傑 傑 出	15 心 12 𠄎 憤 191 憤 フン 憤激 憤慨 憤 然 義憤 憤死 憤 いさおこる	11 車 4 𠄎 軟 191 軟 ナン 軟化 柔軟 硬 軟 軟式テニス やわらか やわらかい 軟らかい 水
7 辛 0 𠄎 辛 191 辛 シン 辛勝 辛抱強い からい 辛苦 辛酸 香辛料 塩辛い 辛口	9 𠄎 狭 191 狭 セまい 狭き門 道が 狭い せびめる せびまる キヨウ 範囲を狭める	14 糸 8 𠄎 綱 191 綱 コウ 大綱 綱領 要 綱 網 綱引き 命綱	9 心 6 𠄎 恨 191 恨 コン 悔恨 遺恨 うらむ うらめしい 逆恨み 恨みを晴ら す 恨み言	11 𠄎 郭 191 郭 カフ 輪郭 城郭	13 手 10 𠄎 携 191 携 ケイ 携行 必携 提 携 たずさえる たずさわ る 教育に携わる	13 人 11 𠄎 催 191 催 サイ 開催 共催 催 促 主催者 催事場 もよおす 催し物
7 水 4 𠄎 沙 191 沙 サ 沙汰	10 𠄎 宰 191 宰 サイ 主宰 宰相 宰 領	7 女 4 𠄎 妥 191 妥 ダ 妥当 妥結 妥協	18 金 10 𠄎 鎮 191 鎮 チン 文鎮 鎮火 鎮 魂 鎮静 重鎮 鎮 しずめる しずまる	11 糸 5 𠄎 累 191 累 ルイ 累計 累積 累 加 累を及ぼす	7 水 4 𠄎 沃 191 沃 ヨク 沃土 肥沃	14 辛 7 𠄎 辣 191 辣 ラツ 辣腕 辛辣



15 心 11 ㇰ ㇱ ㇲ ㇳ 憂 237 憂 ユウ 憂色 うれえる うれい 途を憂える うれい 前	10 刀 8 丨 冂 冂 冂 剛 237 剛 ゴウ 剛直 剛球 實剛健	9 刀 7 冂 冂 冂 削 237 削 サク 削除 添削 削り 削り跡 鉛筆	14 水 11 冂 冂 冂 漏 237 漏 ロウ 漏水 漏電 漏 もれる もいらす 雨漏り 光が漏れる	13 示 9 ネ 初 初 初 禍 237 禍 カ 戦禍の傷跡 を残す 禍根	12 金 4 金 金 鈍 236 鈍 ドン 鈍感 鈍角 にぶい にぶる 音が鈍る 鈍い	9 日 5 丨 丨 丨 是 236 是 ゼ 是正 是非 是か非か 是非 是認
6 木 2 一 丨 朽 237 朽 キユウ 不朽の名作 老朽化 朽ちる 朽ち果てる 木の葉が朽ちる	13 口 10 丨 丨 丨 嗅 237 嗅 キユウ 嗅覚 かぐ 嗅ぎ分ける	19 鹿 8 丨 丨 丨 麗 237 麗 レイ 華麗 流麗 麗 美辞麗句 うるわしい	7 禾 2 一 丨 秀 237 秀 シユウ 優秀 秀才 秀逸 秀句 ひびく	10 肉 6 月 月 脂 237 脂 シ 脂肪 油脂 樹脂 あぶら 脂肪 脂肉 脂がのった肉	15 辵 12 丨 丨 丨 遷 237 遷 セン 変遷 遷都 遷部 遷左	29 鬱 19 丨 丨 丨 鬱 237 鬱 ウツ 鬱血 鬱屈
11 手 8 一 丨 措 239 措 ソ 緊急措置 挙措	19 艹 16 丨 丨 藻 239 藻 ソウ 海藻 藻類 も 海底の藻くず 槽の藻 水	7 邦 4 一 丨 邦 239 邦 ホウ 邦訳 邦画 邦文 異邦人 連邦 本邦 邦楽	10 木 6 丨 丨 桃 239 桃 トウ 白桃 桃源郷 もも 桜桃 桃色 桃の節句	9 木 5 一 丨 柿 239 柿 カキ 柿の木	11 水 8 丨 丨 澁 239 澁 ジユウ 澁滞 難澁 しび 澁柿 茶澁 しびい しびる 澁い顔	17 石 12 石 研 礪 237 礪 シヨウ 暗礪 岩礪 座礪 さんご礪
8 水 5 丨 丨 泌 239 泌 ヒツ 分泌物	10 水 7 冂 冂 冂 浸 239 浸 シン 浸透 浸水 ひたす ひたる 水浸 し 喜びに浸る	15 水 12 冂 冂 冂 潤 239 潤 ジュン 利潤 潤沢 うるおう うるおす 草木が潤う 目が潤む	12 疒 7 丨 丨 痢 239 痢 リ 下痢 赤痢 疫痢	12 疒 7 丨 丨 痘 239 痘 トウ 種痘 水痘 天痘	10 疒 5 丨 丨 症 239 症 シヨウ 重症 軽症 症状 感染症	10 手 7 一 丨 抄 239 抄 チョク 進抄
15 穴 10 丨 丨 窯 239 窯 カマ 窯元 窯に火を入れる ヨウ	9 穴 4 丨 丨 窈 239 窈 セツ 窈盗 窈取	15 穴 10 丨 丨 窮 239 窮 キユウ 窮屈 窮地に立つ さわる さわる	16 土 13 丨 丨 壤 239 壤 ジョウ 土壤	15 土 12 丨 丨 墳 239 墳 フン 古墳 墳墓 墳前方後円墳	12 土 9 丨 丨 塚 239 塚 ツカ 貝塚 一里塚	8 土 5 一 丨 坪 239 坪 ツボ 一坪 坪数 坪建
15 戈 11 丨 丨 戲 250 戲 ギ 遊戯 戯曲 戯画 たむじめる	9 玉 5 一 丨 珍 249 珍 チン 珍客 珍重 珍事 珍妙 珍味 めずらしい 珍しい 古	17 手 14 丨 丨 擦 249 擦 サツ 摩擦 擦過傷 する すれる 擦り傷 マツチを擦る	9 郎 6 丨 丨 郎 239 郎 ロウ 新郎 一族郎党	10 木 6 丨 丨 桑 239 桑 ソウ くわ 桑畑 桑の実	8 冂 5 丨 丨 邸 239 邸 テイ 邸宅 官邸 私邸 邸内 豪邸	8 又 6 丨 丨 叔 239 叔 シユク 伯叔 叔父 叔母







傷 ショウ 負する  
 の手当て  
 傷傷傷傷傷 傷傷傷傷傷  
 障 ショウ 保する  
 障障障障障  
 蒸 ジョウ 水分の発  
 蒸蒸蒸蒸蒸  
 針 シン 基本方  
 はりに糸を通す  
 針針針針針  
 仁 ジン 愛  
 仁仁仁仁  
 垂 スイ 直線  
 たれる 水が、れる  
 た、らす 幕を、らす  
 垂垂垂垂垂  
 推 スイ 理小説  
 推推推推推  
 寸 スン 法を測る  
 寸寸寸寸寸  
 盛 もる 上り上げる  
 盛盛盛盛盛  
 聖 セイ 職者  
 聖聖聖聖聖

誠 セイ 実な人  
 誠誠誠誠誠  
 舌 シタ 舌をまく  
 舌舌舌舌舌  
 宣 セン 開会言  
 宣宣宣宣宣  
 專 セン 門家  
 專專專專專  
 泉 セン 温旅行  
 いずみ 森の  
 泉泉泉泉泉  
 洗 セン 面所  
 あらう 手をう  
 洗洗洗洗洗  
 染 セン 草木め  
 そ、める 布が、まる  
 染染染染染  
 銭 セン つり  
 銭銭銭銭銭  
 善 セン 設備の改  
 よい 行い  
 善善善善善  
 奏 ソウ 演会  
 奏奏奏奏奏  
 窓 ソウ 同会  
 まど を開ける  
 窓窓窓窓窓

創 ソウ 絵本の作  
 つくる 文化を  
 創創創創創  
 装 ソウ 服を整える  
 装装装装装  
 層 ソウ 地を調べる  
 層層層層層  
 操 ソウ 準備体  
 操操操操操  
 蔵 ソウ 冷庫  
 蔵蔵蔵蔵蔵  
 臟 ソウ 内の検査  
 臟臟臟臟臟  
 存 ソン 生命の在  
 生 競争  
 存存存存存  
 尊 ソン 敬する人  
 たつと、い 教え  
 たつと、い 法を、ぶ  
 どうと、い 平和を、ぶ  
 尊尊尊尊尊  
 退 タイ 場  
 しりぞ、く 後ろに、く  
 しりぞ、ける 敵を、ける  
 退退退退退  
 宅 タク 地開発  
 宅宅宅宅宅

担 タン 任の先生  
 担担担担担  
 探 タン 森を検する  
 さが、す 辞典で、す  
 探探探探探  
 誕 タン 生日  
 誕誕誕誕誕  
 段 ダン 文章の落  
 段段段段段  
 暖 ダン 寒流と流  
 あた、か 今日、かだ  
 あた、か、い かい、日  
 あた、まる 空気が、まる  
 あた、める 部屋を、める  
 暖暖暖暖暖  
 値 チ 価がある  
 ぬ 段が高い  
 値値値値値  
 宙 チュウ 飛行士  
 宙宙宙宙宙  
 忠 チュウ 告を聞く  
 忠忠忠忠忠  
 著 チョ 作物  
 著著著著著

庁 チョウ 県所在地  
 庁庁庁庁庁  
 頂 チョウ 三角形の点  
 いた、く 雪を、く山  
 いた、き 山の  
 頂頂頂頂頂  
 腸 チョウ 断の思い  
 腸腸腸腸腸  
 潮 チョウ 時代の流  
 しお 風を受ける  
 潮潮潮潮潮  
 賃 チン 家をはらう  
 賃賃賃賃賃  
 痛 ツウ 頭がする  
 いた、い 歯が、い  
 いた、む 傷口が、む  
 いた、める 足を、める  
 痛痛痛痛痛  
 敵 テキ 無  
 敵敵敵敵敵  
 展 テン 町の発  
 展展展展展  
 討 トウ 論会  
 討討討討討  
 党 トウ 政治  
 党党党党党

糖 トウ 砂水  
糖糖糖糖糖  
届 とど・ける 荷物を ける  
届届届届届  
難 ナン 破船  
難難難難難  
乳 ニユウ 牛を飲む  
乳乳乳乳乳  
認 みと・める 入会を める  
認認認認認  
納 ノウ 収 だな  
納納納納納  
脳 ノウ 各国首  
脳脳脳脳脳  
派 ハ 立 な試合  
派派派派派  
拝 ハイ 見する  
拝拝拝拝拝  
背 せ 写真の 景  
背背背背背 中をたたく  
背背背背背

肺 ハイ 右の  
肺肺肺肺肺  
俳 ハイ 短歌と 句  
俳俳俳俳俳  
班 ハン に分かれる  
班班班班班  
晚 バン 今 の予定  
晚晚晚晚晚  
否 ヒ 定期的な意見  
否否否否否  
批 ヒ 評する  
批批批批批  
秘 ヒ 密を明かす  
秘秘秘秘秘  
俵 ヒヨウ 土  
俵俵俵俵俵  
腹 フク 激しい 痛  
腹腹腹腹腹  
奮 フン 興 する  
奮奮奮奮奮 勇気を う

並 なみ 木道  
並並並並並 なら・べる 野菜を べる  
並並並並並 なら・ぶ 一列に ぶ  
並並並並並 なら・びに A びに B  
陛 ヘイ 下  
陛陛陛陛陛  
閉 ヘイ 会式  
閉閉閉閉閉 門を じる  
閉閉閉閉閉 し・める 戸を める  
閉閉閉閉閉 し・まる 店が まる  
閉閉閉閉閉  
片 かた 側通行  
片片片片片  
補 ホ 足説明  
補補補補補 おぎな・う 栄養を う  
暮 く 日 ける  
暮暮暮暮暮 く・らす 親と らす  
暮暮暮暮暮  
宝 ホウ 人間画  
宝宝宝宝宝 箱を開ける  
宝宝宝宝宝  
訪 ホウ 家庭 問  
訪訪訪訪訪 たず・ねる 名勝を ねる  
訪訪訪訪訪  
七 ボウ 死 事故  
七七七七七

忘 わす ける すぐに れる  
忘忘忘忘忘  
棒 ボウ 鉄 の練習  
棒棒棒棒棒  
枚 マイ 数を数える  
枚枚枚枚枚  
幕 マク 横断  
幕幕幕幕幕 府を開く  
幕幕幕幕幕  
密 ミツ 秘 を守る  
密密密密密  
密密密密密  
盟 メイ 同 を結ぶ  
盟盟盟盟盟  
模 モ 水玉 様  
模模模模模 規 が大きい  
模模模模模  
訳 ヤク 日本語に ず  
訳訳訳訳訳 言い する  
訳訳訳訳訳  
郵 ユウ 便ポスト  
郵郵郵郵郵  
優 ユウ 勝を 目ざす  
優優優優優  
預 ヨ 金  
預預預預預 あず・ける 銀行に ける  
預預預預預 あず・かる お金を かる

幼 ヨウ せみの 虫  
幼幼幼幼幼 おさない い子ども  
欲 ヨク がない  
欲欲欲欲欲  
翌 ヨク 日 の天気  
翌翌翌翌翌  
乱 ラン 一心不  
乱乱乱乱乱 みだ・れる 服装が れる  
乱乱乱乱乱 みだ・す 列を ず  
卵 たまご 料理  
卵卵卵卵卵  
覽 ラン 回 板  
覽覽覽覽覽  
裏 ウラ 表と  
裏裏裏裏裏  
律 リツ 法 を守る  
律律律律律  
臨 リン 時列車  
臨臨臨臨臨  
朗 ロウ 詩 の 読  
朗朗朗朗朗  
論 ロン 議 になる  
論論論論論



② 家 カ・ケ いえ・や  
 ② 夏 なつ カ・ゲ  
 ② 架 か かける  
 ② 科 カ  
 ③ 苛 カ  
 ⑤ 河 か かわ  
 ④ 果 は 果はたす  
 ⑤ 価 あたい カ  
 ③ 佳 カ  
 ① 花 はな カ  
 ② 何 なに・なん カ  
 ⑤ 仮 か かり  
 ⑤ 可 カ  
 ④ 加 く かわえる  
 ① 火 ひ カ  
 ③ 化 ば かわす  
 ① 下 さ くだる  
 ③ か した・しも  
 ③ 穩 おん おだり・やか

④ 芽 め ガ  
 ② 画 ガク  
 ⑥ 我 われ・わ カ  
 ② 瓦 か かわら  
 158 ② 牙 きば カ  
 174 ② 蚊 か カ  
 ④ 課 カ  
 159 ② 稼 か かせぐ  
 ② 箇 カ  
 ③ 歌 うた・うたう カ  
 ③ 寡 カ  
 159 ② 靴 くつ カ  
 237 ② 禍 カ  
 61 ② 暇 ひま カ  
 ② 嫁 とつめ カ  
 ⑤ 過 あやまち す すぎる  
 ③ 渦 うず カ  
 ④ 貨 カ  
 ② 菓 カ  
 208 ③ 華 はな カ  
 ③ 荷 に カ

③ 階 カイ  
 ③ 開 あひく かい  
 ② 絵 エ カイ  
 ④ 械 カイ  
 156 ③ 皆 カイ  
 ③ 界 カイ  
 ② 海 うみ カイ  
 ② 悔 くやしい カイ  
 ③ 拐 カイ  
 ② 怪 あやしい カイ  
 ④ 改 あらためる カイ  
 264 ⑤ 戒 いましめる カイ  
 ⑤ 快 カイ  
 ② 会 あい カイ  
 ⑥ 灰 はい カイ  
 ② 回 まわす カイ  
 ③ 介 カイ  
 ③ 餓 ガ  
 255 ④ 雅 ガ  
 ④ 賀 ガ

③ 垣 かき ガイ  
 ② 骸 ガイ  
 ② 概 ガイ  
 ③ 該 ガイ  
 ② 蓋 ふた ガイ  
 ③ 慨 ガイ  
 ④ 街 まち ガイ  
 ② 涯 ガイ  
 73 ④ 崖 がけ ガイ  
 ③ 害 ガイ  
 ② 効 はす かい  
 ① 外 がい カイ  
 ③ 貝 カイ  
 ③ 諧 カイ  
 ③ 懐 かい  
 ③ 壊 こわす  
 99 ② 潰 つぶす  
 ⑤ 解 とく かい  
 ③ 楷 カイ  
 ③ 塊 かたまり カイ

⑤ 額 ひたい ガク  
 ② 楽 たのしみ ガク  
 236 ② 岳 たけ ガク  
 ① 学 まなぶ ガク  
 ③ 穫 カク  
 ③ 嚇 カク  
 ③ 獲 えり カク  
 ⑤ 確 たし かく  
 ⑥ 閣 へだた かく  
 ③ 隔 へだた かく  
 40 ② 較 さ かく  
 ④ 覚 おぼえ かく  
 191 ③ 郭 から かく  
 ② 殻 かわ かく  
 ⑤ 核 こわ かく  
 ⑥ 革 かわ かく  
 ⑥ 括 かく かく  
 ② 活 かく かく  
 ② 括 かく かく  
 ④ 潟 かつ かく  
 ② 掛 かけ かく  
 48 ② 顎 あご かく

② 甘 あま かん  
 ⑤ 刊 あま かん  
 ⑥ 干 ひ かん  
 48 ② 干 かん かん  
 ② 刈 かる かん  
 ② 鎌 かま かん  
 189 ⑥ 釜 かま かん  
 ② 株 かぶ かん  
 ③ 且 かつ かん  
 ② 轄 かつ かん  
 ② 褐 かつ かん  
 73 ② 滑 すべ かん  
 ⑥ 葛 わ かん  
 ③ 割 かわ かん  
 ③ 渴 かわ かん  
 ② 喝 かつ かん  
 ② 活 かつ かん  
 ② 括 かつ かん  
 ④ 潟 かつ かん  
 ② 掛 かけ かん  
 48 ② 顎 あご かん

③ 閑 かん  
 ② 間 かん  
 ② 款 かん  
 191 ② 棺 かん  
 ② 敢 かん  
 57 ④ 換 かん  
 137 ② 堪 た かん  
 ② 喚 かん  
 ③ 寒 さむい かん  
 ③ 貫 つらぬ かん  
 264 ② 患 わずら かん  
 ② 勘 かん  
 ② 乾 かわ かん  
 41 ⑥ 陷 おち かん  
 ⑥ 看 かん  
 ⑥ 卷 まく かん  
 ③ 冠 かん  
 ④ 官 かん  
 138 ④ 肝 きも かん  
 ④ 完 かん  
 ② 缶 かん  
 ② 汗 あせ かん

② 丸 まる がん  
 253 ② 鑑 かん  
 ② 艦 かん  
 144 ④ 韓 かん  
 ⑥ 観 かん  
 208 ③ 簡 かん  
 ③ 環 やかた かん  
 ③ 館 かん  
 ② 還 かん  
 ② 憾 かん  
 ② 緩 ゆる かん  
 ② 監 かん  
 252 ④ 飲 かん  
 ④ 関 かん  
 ④ 管 かん  
 ⑤ 慣 な かん  
 ③ 漢 かん  
 ③ 感 かん  
 ⑤ 幹 みき かん  
 ③ 寛 かん  
 ③ 勸 す かん

⑤ 紀 キ  
 ④ 季 キ  
 ③ 祈 い キ  
 ② 奇 キ  
 ② 汽 キ  
 73 ④ 忌 い キ  
 ④ 希 キ  
 ① 岐 ケ キ  
 ⑥ 気 つくえ キ  
 ⑥ 机 あぶ かい  
 ② 危 あぶ かい  
 236 ② 伎 キ  
 ④ 企 くだる キ  
 ④ 願 ねが かん  
 ② 顔 かん  
 49 ⑤ 頑 かん  
 ② 眼 まなこ かん  
 ② 玩 かん  
 ③ 岩 いわ かん  
 ③ 岸 かし かん  
 182 ③ 含 ふく かん

④	③	49	⑥	②	③	⑥	254	⑤	73	⑤	⑤	⑤	②	③	③	③	②	②	③		
旗	毀	棄	貴	棋	期	揮	幾	喜	龜	規	寄	基	婦	鬼	飢	起	記	既	軌		
は きた	キ	キ	キ たつと たつと たつと たつと たつと たつと	キ	キ	キ	い キ	よ ろ キ	か め キ	キ	よ せ る キ	も と キ	か え す キ	お に キ	う え る キ	お こ る キ	し る キ	す て に キ	キ		
③	②	③	②	②	188	④	③	②	250	③	⑥	⑤	②	③	③	⑤	②	④	②	③	④
客	却	詰	喫	吉	菊	議	犧	擬	戲	儀	疑	義	欺	偽	宜	技	騎	機	輝	畿	器
キ ヤク	キ ヤク	つ ま る キ ツ	キ ツ	キ ツ	キ ク	ギ	ギ	ギ	た わ む れ る ギ	ギ	う た が う ギ	ギ	あ ぎ む く ギ	に せ ギ	に つ わ る ギ	ギ	わ ざ ギ	キ	か が や く キ	キ	キ ツ
⑤	③	③	③	③	④	③	④	189	237	⑥	①	⑤	236	②	②	⑤	①	179	⑤	③	③
救	宮	糾	級	急	泣	究	求	白	朽	吸	休	旧	丘	弓	及	久	九	虐	逆	脚	脚
す く う キ ユウ	み や キ ユウ	キ ユウ	キ ユウ	キ ユウ	い そ う キ ユウ	キ ユウ	も と め る キ ユウ	キ ユウ	く ち る キ ユウ	す う キ ユウ	やす む キ ユウ	キ ユウ	お か キ ユウ	ゆ み キ ユウ	お よ ぶ キ ユウ	ひ さ し い キ ユウ	こ の こ の つ キ ユウ	し いた げ る キ ユウ	さ か ら う キ ヤク	キ ヤク	キ ヤク
②	③	111	④	③	④	②	②	②	⑤	②	④	②	②	⑤	②	③	②	239	237	④	③
京	狂	叫	共	凶	漁	御	魚	距	許	虚	挙	扱	拒	居	巨	去	牛	窮	嗅	給	球
キ ョウ	く る キ ョウ	さ け し ぶ キ ョウ	と も キ ョウ	キ ョウ	リ ョウ	お ん キ ョウ	う お ・ さ か な キ ョウ	キ ョ	ゆる す キ ョ	あ げ る キ ョ	あ げ る キ ョ	コ キ ョ	こ ば し む キ ョウ	い る キ ョ	キ ョ	さ る キ ョウ	う し キ ョウ	さ わ め る キ ョウ	か く キ ョウ	キ ユウ	た ま キ ユウ
④	④	③	③	⑤	⑥	②	②	②	③	⑥	②	60	191	③	②	②	④	⑥	②	②	②
競	鏡	矯	橋	境	郷	教	強	脅	胸	恭	恐	狭	挾	峽	況	協	供	享	享	享	享
せ る キ ョウ	か が み キ ョウ	た め る キ ョウ	は し キ ョウ	さ かい キ ョウ	キ ョウ	お し わ る キ ョウ	つ よ い る キ ョウ	お び や い か す キ ョウ	お ぶ す キ ョウ	キ ョウ	う や う や い し い キ ョウ	お そ ろ し い キ ョウ	せ ば し め る キ ョウ	せ ば し め る キ ョウ	は さ む キ ョウ	は さ む キ ョウ	キ ョウ	キ ョウ	キ ョウ	キ ョウ	キ ョウ
②	⑥	②	⑥	①	②	②	③	③	③	⑤	③	③	③	③	③	162	137	111	②	②	⑤
僅	筋	琴	勤	菌	金	近	均	斤	巾	玉	極	局	曲	凝	業	暁	仰	驚	響	響	響
キ ン	す じ キ ン	キ ン	つ と め る キ ン	キ ン	か ね ・ か な キ ン	ち か い キ ン	キ ン	キ ン	キ ン	た ま キ ン	さ わ ら み キ ン	キ ン	キ ン	キ ン	キ ン	あ か つ き キ ン	お お し キ ン	お ど ろ く キ ン	お ど ろ く キ ン	ひ び く キ ン	
②	189	③	②	①	②	②	③	③	③	⑤	③	③	③	③	③	②	②	②	②	②	⑤
串	隅	遇	偶	空	愚	懼	具	駆	苦	句	区	く	銀	吟	襟	謹	錦	緊	禁	禁	禁
く し キ	す み グ ウ	グ ウ	グ ウ	あ ら く ク ウ	お ろ か グ	グ	グ	か け る グ	く る し い グ	ク	ク	ク	ギ ン	ギ ン	え り キ ン	つ つ し む キ ン	に し き キ ン	キ ン	キ ン	キ ン	キ ン
②	⑤	③	③	④	⑥	②	②	②	④	④	④	③	③	④	③	②	④	236	③	156	②
契	型	係	莖	徑	系	形	刑	兄	け	群	郡	軍	薰	勳	訓	君	繰	熊	窟	掘	屈
ち ぎ る ケ イ	か た ケ イ	か か り ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	か た ・ か た ら ケ イ	ケ イ	あ に ・ キ ョウ ウ ケ イ	む れ る ケ イ	グ ン	グ ン	グ ン	か お り る ケ イ	ク ン	ク ン	き み ク ン	く る ク ン	ク ツ	ほ る ク ツ	ク ツ	ク ツ
③	⑥	③	②	③	③	73	②	191	③	③	④	⑥	②	⑤	③	②	②	②	②	②	②
鷄	警	鵝	稽	憬	慶	詣	繼	携	傾	輕	景	敬	螢	經	溪	揭	啓	恵	計	計	計
に わ と り ケ イ	ケ イ	い こ う ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	も う て る ケ イ	つ い く ケ イ	た ず さ い え る ケ イ	か た む く ケ イ	か ろ い か ケ イ	ケ イ	ケ イ	う や ま う ケ イ	ほ た る ケ イ	へ る ケ イ	か か げ る ケ イ	ケ イ	め ぐ ・ む ケ イ	は か ら う ケ イ	は か ら う ケ イ	

② 肩 ⑥ 券 ① 見 ⑤ 件 ① 犬 ① 月 ⑤ 潔 191 傑 ④ 結 ③ 決 ③ 血 ⑥ 穴 ④ 欠 ② 析 ⑥ 激 ② 擊 ⑥ 劇 73 隙 ② 鯨 120 迎 ④ 芸

③ 鍵 ② 謙 ② 賢 ⑥ 憲 ⑥ 権 ③ 遣 ⑥ 絹 ② 献 ② 嫌 ⑤ 検 ② 堅 ② 圈 ⑤ 険 ④ 健 210 軒 ② 拳 189 劍 ② 兼 ② 儉 ③ 梟 ③ 研 ④ 建

⑥ 呼 ② 古 ② 戸 ⑥ 己 ⑥ こ ⑥ 巖 ⑥ 源 ⑤ 減 ③ 舷 ⑤ 現 ② 原 ⑤ 限 ⑤ 弦 191 言 ② 玄 57 幻 ② 元 136 懸 ④ 験 ② 頸 174 繭

③ 娛 ② 後 ③ 吳 ② 午 42 互 ① 五 ③ 顧 ② 錮 ③ 鼓 ② 誇 ③ 雇 ③ 湖 ③ 庫 ⑤ 個 130 枯 ⑤ 故 ② 弧 33 孤 111 虎 ③ 股 ④ 固

⑥ 后 ③ 向 ② 光 ② 交 ② 甲 ② 広 ③ 巧 ④ 功 ② 孔 ② 勾 ② 公 ② 工 ① 口 ⑤ 護 ⑥ 誤 ② 語 163 碁 48 悟

② 荒 ⑥ 紅 ⑥ 皇 ③ 洪 174 恒 ⑤ 厚 ② 侯 ③ 肯 ③ 拘 ③ 幸 ⑤ 効 ③ 更 ② 攻 ② 抗 ⑥ 孝 ② 坑 ② 行 ② 考 92 江 ④ 好

③ 項 ③ 絞 ② 硬 ③ 港 111 慌 259 喉 ② 黄 ③ 梗 ③ 控 ④ 康 ② 高 ⑥ 降 ③ 貢 ⑤ 航 ⑤ 耕 ① 校 ④ 候 ④ 香 56 郊

② 谷 ⑤ 告 ③ 克 208 豪 ② 傲 237 剛 ③ 拷 ② 合 ③ 号 ② 乞 ⑤ 購 ⑥ 講 ② 鋼 ② 衡 ⑤ 興 ② 稿 ③ 酵 191 綱 ⑤ 構 ⑤ 鉞 ② 溝

② 墾 ③ 魂 ③ 紺 ② 痕 ⑤ 混 119 婚 ③ 根 191 恨 174 昆 ⑥ 困 ② 今 118 頃 160 込 ② 駒 ⑥ 骨 134 獄 ② 酷 ⑥ 穀 ② 黒 ② 国 ⑥ 刻



② 臭 シユウ におう  
 ② 秋 シユウ あき  
 ③ 拾 シユウ ひろう  
 ⑥ 宗 シユウ ●ソウ  
 ④ 周 シユウ まわり  
 237 ② 秀 シユウ ●ヒラヒラ  
 ③ 舟 シユウ ふね・ふね  
 ④ 州 シユウ ●シュ  
 ⑥ 囚 シユウ おさめる  
 ⑥ 収 シユウ おさめる  
 ② 樹 シユウ ●ジュ  
 ② 儒 シユウ ●ジュ  
 ② 需 シユウ ●ジュ  
 ⑤ 授 シユウ ●ジュ  
 ③ 呪 シユウ ●ジュ  
 ③ 受 シユウ ●ジュ  
 ② 寿 シユウ ●ジュ  
 ③ 趣 シユウ ●ジュ  
 ④ 種 シユウ たね  
 ② 腫 シユウ はれる  
 ③ 酒 シユウ ●サカベ

191 ③ 柔 シユウ やわらかい  
 ④ 住 シユウ すまう  
 48 ② 充 シユウ ●チウ  
 ② 汁 シユウ ●ジュ  
 ① 十 シユウ とお・と  
 ② 襲 シユウ おそう  
 ② 蹴 シユウ ●キウ  
 ② 醜 シユウ ●シウ  
 111 ② 酬 シユウ ●シウ  
 ② 愁 シユウ ●シウ  
 ③ 集 シユウ ●ジュ  
 ⑥ 衆 シユウ ●ジュ  
 ⑥ 就 シユウ ●ジュ  
 ② 週 シユウ ●ジュ  
 ③ 習 シユウ ●シウ  
 ③ 羞 シユウ ●シウ  
 ③ 終 シユウ ●シウ  
 ② 袖 シユウ ●シウ  
 ⑤ 修 シユウ ●シウ

⑤ 術 シユウ ●ジュツ  
 ⑤ 述 シユウ ●ジュツ  
 ① 出 シユウ ●シュツ  
 ⑥ 熟 シユウ ●ジュツ  
 ③ 塾 シユウ ●ジュツ  
 ⑥ 縮 シユウ ●シュク  
 ③ 肃 シユウ ●シュク  
 ③ 淑 シユウ ●シュク  
 ③ 宿 シユウ ●シュク  
 ④ 祝 シユウ ●シュク  
 ④ 叔 シユウ ●シュク  
 239 ⑥ 縦 シユウ ●ジュウ  
 264 ② 獸 シユウ ●ジュウ  
 ② 銃 シユウ ●ジュウ  
 239 ⑥ 洩 シユウ ●シュウ  
 ⑥ 従 シユウ ●ジュウ  
 ③ 重 シユウ ●ジュウ

⑥ 署 ショ ●ジュ  
 ③ 暑 ショ ●ジュ  
 111 ② 庶 ショ ●ジュ  
 ③ 書 ショ ●ショ  
 ③ 所 ショ ●ショ  
 ④ 初 ショ ●ショ  
 ⑥ 処 ショ ●ショ  
 ③ 遵 ショ ●ジュン  
 239 ③ 潤 ショ ●ジュン  
 ⑤ 準 ショ ●ジュン  
 ④ 順 ショ ●ジュン  
 ③ 循 ショ ●ジュン  
 ⑥ 純 ショ ●ジュン  
 ② 殉 ショ ●ジュン  
 ③ 准 ショ ●ジュン  
 128 ③ 盾 ショ ●ジュン  
 ③ 巡 ショ ●ジュン  
 ② 旬 ショ ●ジュン  
 ② 瞬 ショ ●ジュン  
 ② 春 ショ ●シュン  
 ② 俊 ショ ●ジュン

② 昇 ショウ ●シウ  
 ⑥ 承 ショウ ●シウ  
 ⑤ 招 ショウ ●シウ  
 ③ 尚 ショウ ●シウ  
 ③ 肖 ショウ ●シウ  
 264 ③ 抄 ショウ ●シウ  
 156 ③ 床 ショウ ●シウ  
 ② 匠 ショウ ●シウ  
 ② 召 ショウ ●シウ  
 ② 少 ショウ ●シウ  
 ② 升 ショウ ●シウ  
 144 ① 小 ショウ ●シウ  
 ⑥ 除 ショウ ●シウ  
 ② 徐 ショウ ●シウ  
 ③ 叙 ショウ ●シウ  
 ⑤ 序 ショウ ●シウ  
 ③ 助 ショウ ●シウ  
 ② 如 ショウ ●シウ  
 ① 女 ショウ ●ニョ  
 ⑥ 諸 ショ ●ジュ  
 134 ② 緒 ショ ●ジュ

144 ④ 焦 ショウ ●シウ  
 ④ 烧 ショウ ●シウ  
 134 ② 晶 ショウ ●シウ  
 ② 掌 ショウ ●シウ  
 ③ 勝 ショウ ●シウ  
 ③ 訟 ショウ ●シウ  
 ② 紹 ショウ ●シウ  
 ③ 章 ショウ ●シウ  
 ③ 涉 ショウ ●シウ  
 ③ 商 ショウ ●シウ  
 ④ 唱 ショウ ●シウ  
 ④ 笑 ショウ ●シウ  
 ③ 称 ショウ ●シウ  
 ② 祥 ショウ ●シウ  
 239 ③ 症 ショウ ●シウ  
 ③ 消 ショウ ●シウ  
 ⑥ 将 ショウ ●シウ  
 ② 宵 ショウ ●シウ  
 ③ 昭 ショウ ●シウ  
 ③ 沼 ショウ ●シウ  
 149 ④ 松 ショウ ●シウ

155 ② 丈 ショウ ●シウ  
 ① 上 ショウ ●シウ  
 ② 鐘 ショウ ●シウ  
 237 ③ 礁 ショウ ●シウ  
 260 ③ 償 ショウ ●シウ  
 ⑤ 賞 ショウ ●シウ  
 ② 衝 ショウ ●シウ  
 ② 憧 ショウ ●シウ  
 ⑥ 障 ショウ ●シウ  
 49 ④ 彰 ショウ ●シウ  
 213 ④ 詳 ショウ ●シウ  
 ④ 照 ショウ ●シウ  
 ③ 奨 ショウ ●シウ  
 ⑥ 傷 ショウ ●シウ  
 ⑤ 象 ショウ ●シウ  
 ⑤ 証 ショウ ●シウ  
 ③ 詔 ショウ ●シウ  
 ② 粧 ショウ ●シウ  
 ② 硝 ショウ ●シウ

② 食 ショク ●シキ  
 ② 拭 ショク ●シキ  
 ③ 色 ショク ●シキ  
 ③ 釀 ショク ●シキ  
 189 ② 讓 ショク ●シキ  
 ② 錠 ショク ●シキ  
 239 ② 嬢 ショク ●シキ  
 ④ 壤 ショク ●シキ  
 ④ 繩 ショク ●シキ  
 ⑥ 蒸 ショク ●シキ  
 254 ② 畳 ショク ●シキ  
 ② 場 ショク ●シキ  
 ⑤ 情 ショク ●シキ  
 ⑤ 常 ショク ●シキ  
 ② 剩 ショク ●シキ  
 ② 淨 ショク ●シキ  
 ④ 城 ショク ●シキ  
 ③ 乘 ショク ●シキ  
 ⑤ 状 ショク ●シキ  
 ⑤ 条 ショク ●シキ  
 ② 冗 ショク ●シキ

③ 唇 シン ●シン  
 ③ 神 シン ●シン  
 ③ 津 シン ●シン  
 ④ 信 シン ●シン  
 191 ③ 侵 シン ●シン  
 ③ 辛 シン ●シン  
 ③ 身 シン ●シン  
 ② 芯 シン ●シン  
 ④ 臣 シン ●シン  
 ② 伸 シン ●シン  
 ③ 申 シン ●シン  
 ② 心 シン ●シン  
 ② 尻 シン ●シン  
 ② 辱 シン ●シン  
 ⑤ 職 ショク ●シキ  
 ⑤ 織 ショク ●シキ  
 ② 嘱 ショク ●シキ  
 252 ③ 触 ショク ●シキ  
 208 ③ 飾 ショク ●シキ  
 ③ 殖 ショク ●シキ  
 ③ 植 ショク ●シキ

②	①	②	160	②	209	②	②	49	③	①	③	②	③	⑥	③	239	33	49				
刃	人	親	薪	震	審	新	慎	寝	診	森	進	紳	深	針	真	浸	振	娠				
は ジン	ジン ヒト	シン おや したしい したしい	シン たきぎ	シン ふるう ふるう ふるう	シン	シン あたらしい にい	シン つしむ	シン ねかす	シン みる	シン もり	シン すすむ すすむ	シン	シン ふかかい ふかかい ふかかい ふかかい	シン はり	シン ま	シン ひたす ひたす	シン ふる ふる ふる	シン				
111	49	②	②	⑥	②	174	②	③	⑥	155	①	②	191	138	③	②	144	②	②	⑥		
穂	睡	遂	醉	推	衰	粹	帥	炊	垂	吹	水	凶	須	す	腎	尋	陣	甚	迅	尽	仁	
ほ スイ	スイ	スイ とげる	スイ よ	スイ おす	スイ おとる	スイ いき	スイ	スイ たたく	スイ たれる	スイ ふく	スイ みず	ズ はかる	ス	ジン	ジン たずねる	ジン	ジン はなはだ はなはだ はなはだ はなはだ	ジン	ジン ついきす ついきす	ジン ついきす	ジン ニ	
②	②	④		①		①	③	④	236	②	⑥	②	189	154	②	③	③	③	③	②		
声	西	成		生		正	世	井	是	瀬	せ	寸	裾	杉	据	数	崇	枢	髓	随		
セイ こえ こえ こえ	セイ にし サイ	セイ なる なる なる なる		セイ うまう		セイ ただしい ただしい ただしい ただしい	セイ よ	セイ い	ゼ	ゼ	ス はかる	ス	ス	ス す	ス す	ス す	ス かぞえる	ス かぞえる	ズ ズ	ズ ズ	ズ ズ	
⑥	⑥	⑤	②	②	⑥	④	③	③	④	③	②	⑤	33	①	⑤	②	154	⑤	⑤	⑤		
誠	聖	勢	晴	婿	盛	清	逝	凄	省	牲	星	政	斉	青	性	征	姓	制				
セイ まこと	セイ	セイ いきおい	セイ はれる	セイ むこ	セイ さか	セイ きよ	セイ いく	セイ	セイ かえり	セイ	セイ ほし	セイ まつりごと	セイ	セイ あおい	セイ せい	セイ せい	セイ せい	セイ せい	セイ せい	セイ せい	セイ せい	
②	264	②	③	④	191	③	①	①	②	①	⑤	③	③	②	④	②	⑤	⑤	⑤	⑤		
戚	惜	隻	脊	席	析	昔	赤	石	斥	夕	税	醒	整	請	静	誓	製	精				
セキ	セキ おしい	セキ	セキ	セキ	セキ むかし	セキ あか	セキ あか	セキ いし	セキ せき	セキ ゆう	ゼイ	セイ	セイ ととの	セイ うける	セイ しず	セイ ちかう	セイ せい	セイ せい	セイ せい	セイ せい	セイ せい	
③	②	①	①	⑤	⑥	④	④	②	②	⑤	239	③	④	②	②	⑤	④	②	⑤	⑤		
占	仙	川	千	絶	舌	説	節	摂	雪	設	接	窃	拙	折	切	籍	績	積	跡	責		
セン うらなう	セン	カハ	セン ち	ゼツ たつ	ゼツ した	セツ ふし	セツ せつ	セツ	セツ ゆき	セツ もうける	セツ つ	セツ	セツ つたない	セツ おれる	セツ きる	セキ せき	セキ つ	セキ せき	セキ あと	セキ せめる	セキ せめる	
②	⑥	③	③	③	③	255	③	④	②	②	252	48	⑥	⑥	④	⑥	⑥	⑥	⑥	①		
潜	銭	箋	箋	踐	詮	腺	羨	煎	煎	戦	船	旋	栓	扇	染	洗	浅	泉	専	宣	先	
モン ひそむ	セン ぜに	セン	セン	セン	セン	セン	セン うらやむ	セン い	セン	セン たたかう	セン ふね	セン	セン	セン おんぎ	セン そめる	セン あらう	セン あさい	セン いずみ	セン もっぱら	セン	セン さき	セン
②	239	⑤	②	⑤	②	②		②	②	③	②	④	⑥	②	③	208	213	③	④	237	②	
粗	措	素	租	租	阻	狙	そ	繕	膳	漸	禅	然	善	前	全	鮮	織	薦	選	遷	線	
ソ あら	ソ	ソ ス	ソ	ソ	ソ はむ	ソ ねらう	ソ	ゼン つくろ	ゼン	ゼン	ゼン	ゼン ネン	ゼン よい	ゼン まえ	ゼン すべ	ゼン ま	ゼン あざ	ゼン すす	セン えら	セン	セン せん	セン
④	239	254	②	④	③	①	②	③	⑥	②	④	①	236	②	②	③	③	③	③	②	②	
巢	桑	挿	搜	倉	送	草	莊	相	奏	走	争	早	壮	双	礎	遡	遡	塑	訴	疎	組	
ソウ す	ソウ くわ	ソウ さす	ソウ さがす	ソウ くら	ソウ おく	ソウ くさ	ソウ	ソウ あ	ソウ かな	ソウ はし	ソウ あ	ソウ はや	ソウ は	ソウ ふた	ソウ い	ソウ さ	ソウ	ソウ う	ソウ う	ソウ う	ソウ く	ソウ く



174	56	239	②	239	⑥	②	②	③	③		191	⑥	③	②	249	136	239	②	②			
鶴	爪	坪	漬	塚	痛	通	墜	椎	追	つ	鎮	賃	陳	朕	珍	沈	抄	勅	直			
つる	つめ	つぼ	ついでかる	つか	いたむる いたむる	ツウ とおす かよう	ツイ ツイ	ツイ ツイ	ツイ		しずめる しずまる	チン	チン	チン	チン	めずらしい しずめる	チヨク	チヨク	チヨク ただちに なおす			
③	⑤	⑤	②	②	⑤	③	③	236	③	③	②	239	②	④	③	②	③	②	④			
艇	程	提	堤	偵	停	遞	庭	訂	帝	貞	亭	邸	抵	底	定	弟	廷	呈	低	て		
テイ	テイ ほど	テイ きりあげる	テイ つみ	テイ	テイ	テイ	テイ にわ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	そこ テイ	さだめる さだまる	おとうと テイ・グイ	テイ	テイ	ひくめる ひくめる	ひくめる ひくめる		
③	166	⑥	②	②	④	①	264	③	③	③	③	②	⑥	⑤	③	②	③	④	95	②	②	
転	添	展	点	店	典	天	撤	徹	鉄	哲	迭	溺	溺	敵	適	滴	摘	笛	的	泥	諦	締
ころがる ころがす	テン そえる	テン	テン	テン みせ	テン	あめ・あま テン	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	おぼれる デキ	かたき デキ	テキ	テキ	しずく したたる	テキ つむ	テキ ふえ	まとも テキ	どろ テキ	あきらめる テイ	しめる テイ
②	③	④	②	①	③	212	122	③	③	③	③	④	253	②	189		②	②	④	①	②	
怒	度	努	奴	土	賭	塗	渡	都	途	徒	妬	吐	斗	と			②	②	④	①	②	
おこる	たび タビ	つとめる ド	ド	ド つち	かける ト	ぬる ト	わたす ト	みやこ ト	ト	ト	ねたむ ト	はく ト	ト			デン	デン との・デン	つたえる つたえる	つたえる つたえる	た デン	しめる デン	
210	174	48	174	⑥	134	⑥	239	③	③	②	60	189	②	②	②	③	③	②	④	②	②	
塔	陶	盗	悼	党	透	討	桃	島	唐	凍	倒	逃	到	東	豆	投	当	灯	冬	刀		
トウ	トウ	ぬすむ トウ	いたむ トウ	トウ	すける トウ	トウ	もも トウ	しま トウ	から トウ	こごえる トウ	たおす トウ	のがれる トウ	にがす トウ	ひがし トウ	まめ トウ	なげる トウ	あたる トウ	トウ	トウ	かたな トウ		
⑤	③	251	236	②	③	③	73	③	②	⑥	135	154	⑤	②	③	②	③	239	③	208	③	
堂	動	胴	洞	同	騰	鬪	藤	騰	頭	糖	踏	稻	統	筒	等	答	登	痘	湯	棟	搭	
ドウ	うごかす ドウ	ドウ	ほら ドウ	おなじ ドウ	トウ	たたかう トウ	ふじ トウ	トウ	かしら トウ	あたま トウ	トウ	ふまえる トウ	いね・いな トウ	すべる トウ	つつ トウ	ひとしい トウ	こたえる トウ	のぼる トウ	トウ	むね トウ	トウ	
189	144	⑥	56	②	④	②	⑤	⑤	②	④	②	⑤	④	49	188	212	⑤	⑤	④	②	③	
豚	屯	届	突	凸	枋	読	独	毒	篤	徳	督	得	特	匿	峠	瞳	導	銅	働	道	童	
ぶた トン	トン	とどける トウ	つとく トウ	トウ	とち トウ	よむ トウ	ひとり トウ	ドク	ドク	トク	トク	トク	トク	トク	とうげ トウ	ひとみ トウ	みちびく トウ	トウ	はたらく トウ	みち トウ	わらべ トウ	
②	56	②	②	①	⑥	191	②	57	111	④	②	④	③		144	189	236	251	139			
肉	匂	式	尼	二	に	難	軟	南	鍋	謎	謎	梨	内	奈	那	な	井	曇	鈍	貪	頓	
ニク	におう ニク	ニ	あま ニ	ふた ニ	ふた ニ	むずかしい ナン	やわらかい ナン	みなみ ナン	なべ ナン	なぞ ナン	なし ナン	うち ナイ	ナ	ナ	ナ	な	どんぶり ナン	くもる ナン	にぶい ナン	むさぼる ナン	トン	
⑥	③		⑤	②	174	④	①	④	③	⑥	251	49	⑤	②	⑥	①	①	①	②			
納	悩	の	燃	粘	捻	念	年	熱	寧	ね	認	忍	妊	任	尿	乳	入	日	虹			
おさめる ノウ	なやむ ノウ		もえる ネン	ねばる ネン	ネン	ネン	とし ネン	あつい ネツ	ネイ	みとめる ニン	しのぶ ニン	まかす ニン	まかせる ニン	ニヨウ	ニユウ	はいれる ニユウ	ニユウ	ニユウ	にじ ニユウ			







「付表」の語

(2) (1) 「付表」の語とは、「常用漢字表」の「付表」にあげられている語です。  
 □は小学校で学習した語、◆は小・中学校で学習しなくてもよい語を示しています。

□明日	あす
小豆	あずき
◆海女・海士	あま
硫黄	いおう
意気地	いくじ
田舎	いなか
◆息吹	いぶき
海原	うなばら
乳母	うば
◆浮気	うわき
浮つく	うわつく
笑顔	えがお
叔父・伯父	おじ
□大人	おとな
乙女	おとめ
叔母・伯母	おば
お巡りさん	おまわりさん
◆お神酒	おみき
◆母屋・母家	おもや
□母さん	かあさん
◆神楽	かぐら
◆河岸	かし
鍛冶	かじ
風邪	かぜ

固唾	かたず
仮名	かな
◆蚊帳	かや
為替	かわせ
□河原・川原	かわら
□昨日	きのう
□今日	きょう
□果物	くだもの
◆玄人	くろうと
□今朝	けさ
□景色	けしき
心地	こち
◆居士	こじ
□今年	ことし
早乙女	さおとめ
◆雑魚	ざこ
◆棧敷	さじき
差し支える	さしつかえる
五月	さつき
早苗	さなえ
五月雨	さみだれ
時雨	しぐれ
尻尾	しっぽ
竹刀	しな

老舗	しにせ
芝生	しばふ
□清水	しみず
三味線	しゃみせん
砂利	じゃり
◆数珠	じゆず
□上手	じょうず
白髪	しらが
◆素人	しろうと
◆師走	しわす(しはす)
◆数寄屋	すきや
◆数奇屋	すまう
相撲	すもう
草履	ぞうり
◆山車	だし
太刀	たち
立ち退く	たちのく
□七夕	たなばた
足袋	たび
◆稚児	ちご
□一日	ついたち
◆築山	つきやま
梅雨	つゆ
凸凹	でこぼこ

□手伝う	てつだう
◆伝馬船	てんません
◆投網	とあみ
□父さん	とうさん
◆十重二十重	とえはたえ
◆読経	どきょう
□時計	とけい
□友達	ともだち
◆仲間	なこうど
◆名残	なごり
雪崩	なだれ
□兄さん	にいさん
□姉さん	ねえさん
◆野良	のら
◆祝詞	のりと
□博士	はかせ
二十	はたち
二十歳	はたし
□二十日	はつか
波止場	はとば
□一人	ひとり
日和	ひより
□二人	ふたり
□二日	ふつか

吹雪	ふぶき
□下手	へた
□部屋	へや
□迷子	まいご
□真面目	まじめ
□真つ赤	まっか
□真つ青	まっさお
土産	みやげ
息子	むすこ
□眼鏡	めがね
◆猛者	もさ
紅葉	もみじ
木綿	もめん
最寄り	もより
◆八百長	やおちよう
□八百屋	やおや
大和	やまと
弥生	やよい
◆浴衣	ゆかた
行方	ゆくえ
◆寄席	よせ
若人	わこうど

# 一年生で読みを学習した漢字・語

中学校で学習する小学校配当漢字音訓

73	208	33	33	33	33	73	191	56	236	33	49	73	121							
京	宮	技	貴	基	危	干	外	我	荷	園	媛	遺	衣							
ケイ	グウ	わざ	たつとーい たつとーい たつとーい たつとーい	もと	あやうい あやうい	ひーる	ゲ	わが	カ	その	エン	ヘユイ	ころも							
33	33	237	33	161	191	174	33	73	134	33	208	73	33							
耳	試	姉	災	座	砂	香	幸	健	極	業	境	郷	胸							
ジ	ためす	シ	わざわい	すわる	シャ	コウ	さち	すこやか	さわる さわる さわる	わざ	ヘケイ	ゴウ	むな							
33	191	163	33	239	191	33	165	33	253	250	73	73	33	73						
操	相	早	銭	川	切	夕	盛	推	傷	笑	除	熟	集	滋						
あやつる	シヨウ	ヘサツ	ぜに	セン	ヘサイ	セキ	セイ さかん	おす	いたむ いたむ	シヨウ えい	ヘジ	うれる	つどう	ジ						
33	111	33	120	73	72	208	165	174	57	213	210	33	33	33						
鼻	費	秘	犯	納	認	内	度	程	提	弟	丁	値	速	蔵						
ビ	ついでる	ひめる	おかす	ヘナツ ヘトウ	ニン	ヘタイ	ヘタク たひ	ほど	さげる	ヘテイ ヘテイ	テイ	あたい	すみやか	くら						
73	174	57	166	174	237	191	135	215	33	208	236	174	191							
卵	来	欲	優	門	妹	忘	報	訪	暮	閉	並	夫	貧							
ラン	きたる	ほしい	すぐれる	かど	マイ	ボウ	むくいる	おとされる	ボ	とさす	ヘイ	ヘフウ	ヒン							
111	130	144	264	144	111	144	264	264	161	264	58	264	57	163	264					
大和	息子	日和	雪崩	梅雨	立ち退く	三味線	芝生	竹刀	尻尾	五月	五月	飯名	鍛冶	叔父	乳母	海原	田舎	意気地	小豆	
	むすこ	ひより	なだれ	つゆ	たちのく	しゃみせん	しばふ	しな	しな	しま	しな	しな	しな	しな	しな	しな	しな	しな	しな	しな
	やまと																			

「付表」の語 P 351へ（一年生二十語）

「付表」の語

「中学校で学習する小学校配当漢字音訓」とは、小学校で学習した漢字のうち中学校で学習する読みをもつものとその読みです。  
(一年生七十二字)